

令和7年度第2回埼玉県バーチャルユースセンター

運営検討会議 次第

日時 令和7年8月19日(火)
15:00～17:00
会場 オンライン

1 開会

2 挨拶

3 議事

- (1) 埼玉県バーチャルユースセンター試行状況報告について
- (2) 埼玉県バーチャルユースセンター今後の方向性(案)について

4 閉会

◆埼玉県バーチャルユースセンター運営検討会議委員名簿

令和7年度

No.	氏名	備考
1	青山 鉄兵	文教大学・准教授
2	さいたまん吉	埼玉県広報アンバサダー
3	篠谷 瞳	さいたま市総合教育相談室
4	諏訪 峻之	上尾市こども家庭保健課
5	利根 好子	小川町健康福祉課
6	鳥海 洋平	大日本印刷株式会社
7	ブローハン 聡	一般社団法人コンパスナビ・代表理事
8	堀田 香織	埼玉大学・教授

埼玉県バーチャルユースセンター 試行状況報告

2025.08.19

認定NPO法人さいたまユースサポートネット



10月活動実績

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
10月 1日(火) 10:00~14:00	VYCを探検しよう！(13:00~13:45)	0名
10月 3日(木) 10:00~14:00	VYCを探検しよう<操作方法デモ>(10:00~10:45)	5名(男:2名、女:3名)
10月 8日(火) 10:00~14:00	VYCを探検しよう！(10:00~10:45) トークカフェ(13:00~13:45)	7名(男:5名、女:2名)
10月11日(金) 13:00~17:00	VYCを探検しよう！<小学生デモ>(16:00~17:00)	15名(男:7名、女:8名)
10月15日(火) 10:00~14:00	トークカフェ(13:00~13:50)	2名(男:2名、女:0名)
10月16日(水) 10:00~11:00	VYCを探検しよう！<狭山市教委操作方法デモ> (10:00~11:00)	6名(男:2名、女:4名)
10月17日(木) 10:00~14:00	哲学カフェ(13:30~14:30)	9名(男:4名、女:5名)
10月22日(火) 12:00~16:00	バーチャル県民SHOW(14:00~15:30)	2名(男:2名、女:0名)
10月25日(金) 13:00~17:00	宝探し(小学生コラボ会)(15:00~17:00)	43名
10月29日(火) 10:00~14:00	トークカフェ(13:00~13:45)	10名(男:4名、女:6名)

10月利用者(述べ人数)	10月登録者数
99名	21名

11月活動実績

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
11月 1日(金) 13:00~17:00	LGBTQ基礎知識セミナー(14:00-15:00)	6名(男:4名、女:2名)
11月 5日(火) 10:00~14:00	健康教室(10:30-12:00)	6名(男:3名、女:3名)
11月 6日(水) 13:30~14:30	学びの場デモ(13:30~14:30)	4名(男:2名、女:2名)
11月 8日(金) 13:00~17:00	表現コミュニケーションWS(10:30-12:00)	1名(男:0名、女:1名)
11月12日(火) 10:00~14:00	表現コミュニケーションWS(13:00-13:30)	2名(男:1名、女:1名)
11月15日(金) 13:00~17:00	県立ふじみ野高校デモ(13:30-13:30)	16名(男:10名、女6名)
11月19日(火) 10:00~14:00	こころの話・からだの話(11:00-11:30)	6名(男:5名、女:1名)
11月22日(金) 13:00~17:00	表現&哲学対話のmix Ver.(13:00-14:00)	0名(男:0名、女:0名)
11月24日(日) 13:00~17:00	★こどもの居場所フェア埼玉(12:00-16:00)	50名
11月26日(火) 10:00~14:00	表現&哲学対話のmix Ver.(13:00-14:00)	5名(男:3名、女:2名)
11月29日(火) 13:00~17:00	推し本紹介しよう!(15:00-16:00)	6名(男:3名、女:3名)

11月利用者(述べ人数)	11月登録者数
102名	16名

12月活動実績 (1)

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
12月 3日(火) 10:00~14:00	①学習プログラム(10:30-11:30) ②ポレポレひろば(13:00-14:00)	①②0名(男:0名、女:0名)
12月 6日(金) 9:00~17:00	①加須市教育支援センターデモ(10:05-11:05) ②プログラミング教室「スクラッチやろう」(13:30-14:30) ※Zoom ③トークカフェ(16:00-17:00)	①7名(男:1名、女:6名) ②1名(男:1名、女:0名) ③1名(男:1名、女:0名)
12月10日(火) 10:00~14:00	①学習プログラム(10:30-11:30) ②ポレポレひろば(13:30-14:00)	①②0名(男:0名、女:0名)
12月13日(金) 14:00~18:00	①見沼の生き物を知ろう！(14:00-15:00) ②トークカフェ(16:00-17:00)	①3名(男:2名、女:1名) ②1名(男:1名、女:0名)
12月17日(火) 10:00~14:00	①学習プログラム(10:30-11:30) ②ポレポレひろば(13:00-14:00)	①0名 ②15名
12月19日(木) 17:00~18:00	コンパスナビデモ(17:00~18:00)	5名(男:2名、女:3名)
12月20日(火) 11:00~15:00	★つながるSAITAMAフェスタ ①トークカフェ(11:00-11:45) ②トークカフェ特別講演(13:15-14:00) ③本のおしゃべり(14:00-15:00)	①2名 ②12名 ③16名

12月活動実績 (2)

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
12月26日(木) 11:00~13:00	煮ぼうとうオフ会inさいたま市若者自立支援ルーム・桜木(11:00-13:00)	7名(男:5名、女:2名)
12月27日(金) 14:00~17:00	①見沼の植物を知ろう!(14:00-15:00) ②トークカフェ(16:00-17:00)	①1名 ②0名

12月利用者(述べ人数)	12月登録者数
71名	27名

1月活動実績 (1)

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
1月 7日(火) 18:30~20:30	新春トークカフェ(19:00-20:00)	1名
1月 8日(水) 14:00~16:00	発酵の話し(14:30-15:30)	0名
1月 9日(木) 16:00~18:00	暦のハナシ(16:30-17:30)	0名
1月10日(金) 15:00~17:00	ポレポレひろば(15:30-16:30)	0名
1月15日(水) 16:00~18:00	お仕事トーク「学校の先生」(16:30-17:30)	0名
1月16日(木) ①10:00~10:30 ②16:00~18:00	①本庄市教育支援センターデモ(10:00-10:30) ②観るラジオ☆バーたま!(16:30-17:30)	①6名 ②1名
1月17日(金) 15:00~17:00	ポレポレひろば(15:30-16:30)	0名
1月21日(水) 13:00~15:00	プログラミング教室(13:30-14:30)	1名
1月22日(木) 14:00~16:00	①NPOクラブしっきーずデモ(14:30-15:30) ②見沼の自然を知ろう(14:30-15:30)	①5名 ②1名
1月23日(木) 12:00~15:30	①煮ぼうとうオフ会in上尾市子ども若者自立支援 ルームここから(12:00-13:30) ②ポレポレひろば(14:00-15:00)	①9名 ②8名
1月24日(金) 15:00~17:00	学びの時間(15:30-16:30)	0名

1月活動実績 (2)

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
1月25日(土) 15:30~17:30	本のおしゃべり(16:00-17:00)	2名
1月28日(火) 14:30~16:30	からだの話(15:00-16:00)	4名
1月29日(水) 16:00~18:00	ポレポレひろば(16:30-17:30)	0名
1月30日(木) 16:00~18:00	学びの時間(16:30-17:30)	0名
1月31日(金) 15:00~17:00	推しトーク「音楽」(15:30-16:30)	3名

1月利用者(述べ人数)	1月登録者数
41名	5名

2月活動実績 (1)

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
2月 3日(月) 14:00~16:00	お仕事トーク「ネイリスト」(14:30-15:30)	0名
2月 4日(火) 13:00~15:00	暦のハナシ(13:30-14:30)	0名
2月 5日(水) 14:30~16:30	観るラジオ☆バーたま!(15:00-16:00)	3名
2月 7日(金) 14:00~16:00	ポレポレひろば(14:30-15:30)	1名
2月 8日(土) 14:00~16:00	VYC向上委員会(14:30-15:30)	3名
2月12日(水) 13:00~15:00	ゆるっと自習室(13:30-14:30)	0名
2月13日(木) 13:00~15:00	推しトーク「好きな漫画」(13:30-14:30)	0名
2月14日(金) 14:00~16:00	ポレポレひろば「おやつ」(14:30-15:30)	3名
2月18日(火) 13:00~15:00	プログラミング教室(13:30-14:30)	0名
2月19日(水) 10:00~12:00	ゆるっと自習室(10:30-11:30)	0名
2月20日(木) 13:30~15:30	ポレポレひろば「コンビニ」(14:00-15:00)	6名
2月21日(金) ①10:00~12:00 ②18:30~20:30	①子ども地域ネットワーク所沢デモ(10:00-12:00) ②ゆるっとトーク(19:00-20:00)	①7名 ②0名

2月活動実績（2）

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
2月25日(火) 13:00~15:00	VYCオープンデー(13:30-14:30)	3名
2月26日(水) 14:00~16:00	ポレポレひろば「インドア」(14:30-15:00)	0名
2月27日(木) 13:00~15:00	推しトーク「マイクラフト」(13:30-14:30)	1名
2月28日(金) 14:30~16:30	みちねこのブックトーク(15:00-16:00)	3名

2月利用者(述べ人数)	2月登録者数
30名	23名

3月活動実績 (1)

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
3月 4日(火) 10:00~12:00	暦のハナシ(10:30-11:30)	0名
3月 5日(水) 10:00~12:00	ゆるっと自習室(10:30-11:30)	0名
3月 6日(木) 13:30~15:30	ポレポレひろば(14:00-14:30)	0名
3月 7日(金) 14:00~16:00	ゆるっとトーク(14:30-15:30)	0名
3月11日(火) 14:00~16:00	推しトーク「好きなキャラクター」(14:30-15:30)	0名
3月12日(水) 10:00~12:00	ゆるっと自習室(10:30-11:30)	0名
3月13日(木) 13:30~15:30	ポレポレひろば(14:00-14:30)	0名
3月14日(金) 14:00~16:00	推しトーク「好きなテーマパーク」(14:30-15:30)	1名
3月18日(火) 13:30~15:30	観るラジオ☆バーたま!(14:00-15:00)	3名
3月19日(水) 10:00~12:00	ゆるっと自習室 (10:30-11:30)	0名
3月21日(金) 14:30~16:30	若者の声(15:00-16:00)	1名

3月活動実績 (2)

VYC
オープン
DAY

※春休み企画

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
3月26日(水) 14:00~16:00	バーチャル埼玉ツアー(14:30-15:30)	6名
3月27日(木) 10:00~12:00	バーチャル埼玉ツアー(10:30-11:30)	4名
3月28日(金) 10:00~12:00	ゆるっとトーク「ペット」(10:30-11:30)	0名
3月29日(土) 19:00~21:00	バーチャル埼玉ツアー(19:30-20:30)	1名
3月30日(日) 19:00~21:00	推しトーク「ゲーム」(19:30-20:30)	3名

3月利用者(述べ人数)	3月登録者数
19名	16名

4月活動実績(1)

VYC
オープン
DAY
※春休み企画

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
4月 2日(水) 10:00~12:00	バーチャル埼玉ツアー(10:30-11:30)	2名
4月 3日(木) 10:00~12:00	観るラジオ☆バーたま!(10:30-11:30)	2名
4月 4日(金) 15:30~17:30	バーチャル埼玉ツアー(16:00-17:00)	1名
4月 5日(土) 15:30~17:30	ゆるっとトーク「マンガ」(16:00-17:00)	0名
4月 8日(火) 10:00~12:00	暦のハナシ(10:30-11:30)	1名
4月 9日(水) 10:00~12:00	ゆるっと自習室(10:30-11:30)	0名
4月10日(木) 16:00~18:00	はじめてのVYC(16:30-17:30)	0名
4月11日(金) 11:00~13:00	ランチトーク(11:30-12:30)	0名
4月15日(火) 10:00~12:00	推しトーク「好きなキャラクター」(10:30-11:30)	0名
4月16日(水) 10:00~12:00	ゆるっと自習室(10:30-11:30)	0名
4月17日(木) 16:00~18:00	はじめてのVYC(16:30-17:30)	0名
4月18日(金) 11:00~13:00	ランチトーク(11:30-12:30)	0名

4月活動実績(2)

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
4月22日(火) 10:00~12:00	推しトーク「ゲーム」(10:30-11:30)	0名
4月23日(水) 10:00~12:00	ゆるっと自習室(10:30-11:30)	0名
4月24日(木) 16:00~18:00	はじめてのVYC(16:30-17:30)	1名
4月25日(金) 11:00~13:00	ランチトーク(11:30-12:30)	0名
4月26日(土) 19:00~21:00	ゆるっとトーク「GWなににするん?」(19:30-20:30)	1名
4月28日(月) 12:30~14:30	お仕事トーク(13:00-14:00)	0名
4月30日(水) 10:00~12:00	ゆるっと自習室(10:30-11:30)	1名

4月利用者(述べ人数)	4月登録者数
9名	10名

5月活動実績

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
5月 1日(木) 15:00~18:00	①スタッフラジオ(15:30-16:30) ②ゆるっとトーク(17:00-17:30)	①0名 ②0名
OPEN 5月 3日(土) 19:00~21:00	テーマトーク「コンビニで思わず買っちゃうもの」 (19:30-20:30)	0名
5月 7日(水) 9:30~12:30	①暦のハナシ(10:00-11:00) ②ゆるっとトーク(11:30-12:00)	①0名 ②0名
5月 8日(木) 15:00~18:00	①ゆるっと自習室(15:30-16:30) ②まったりChill time(17:00-17:30)	①0名 ②0名
5月 9日(金) 11:00~13:00	ランチトーク(11:30-12:30)	0名
OPEN 5月13日(火) 9:30~12:30	①おためしVYC(10:00-11:00) ②スタッフラジオ(11:30-12:00)	①3名 ②3名
5月15日(木) 15:00~18:00	①ゆるっと自習室(15:30-16:30) ②まったりChill time(17:00-17:30)	①0名 ②0名
5月16日(金) 17:00~19:00	わせだこども食堂デモ(17:00-19:00)	10名

※ OPEN :オープンDAY実施日(未登録でも参加可能)

6月活動実績(1)

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
6月 3日(火) 9:30~12:30	①暦のハナシ(10:00-11:00) ②ゆるっとトーク(11:30-12:00)	①0名 ②1名
6月 5日(木) 15:00~18:00	①ゆるっと自習室(15:30-16:30) ②まったりChill time(17:00-17:30)	①0名 ②0名
OPEN 6月 8日(日) 10:00~13:00	①VYCオープンDAY(10:30-11:30) ②ほりさきマルシェデモ(12:00-13:00)	①1名 ②15名
OPEN 6月10日(火) 9:30~12:30	①おためしVYC(10:00-11:00) ②スタッブラジオ(11:30-12:00)	①1名 ②0名
6月12日(木) 15:00~18:00	①ゆるっと自習室(15:30-16:30) ②まったりChill time(17:00-17:30)	①1名 ②0名
6月14日(土) 10:00~12:00	きいたんの部屋(10:30-11:30)	1名
OPEN 6月17日(火) 9:30~12:30	①おためしVYC(10:00-11:00) ②ランチトーク(11:30-12:00)	①0名 ②0名
6月19日(木) 15:00~18:00	①ゆるっと自習室(15:30-16:30) ②まったりChill time(17:00-17:30)	①0名 ②0名

※ OPEN : オープンDAY実施日(未登録でも参加可能)

6月活動実績(2)

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
6月22日(日) 15:00~18:00	①イバショビルド(15:30-16:30) ②鳩山町若者の集い「やきいも」デモ(16:00-18:00)	①0名 ②6名
6月24日(火) 9:30~12:30	①テーマトーク「好きな本」(10:00-11:00) ②スタッフラジオ(11:30-12:00)	①0名 ②0名
6月26日(木) 15:00~18:00	①観るラジオ☆バーたま!(15:30-16:30) ②ゆるっとトーク(17:00-17:30)	①0名 ②0名
6月28日(土) 14:00~17:00	①ほりさきたまり場デモ(14:00-15:00) ②推しトーク「K-POP」(15:30-16:30)	①6名 ②1名

6月利用者(述べ人数)	6月登録者数
33名	11名

7月活動実績(1)

	開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
OPEN	7月 1日(火) 9:30~12:30	①暦のハナシ(10:00-11:00) ②ゆるっとトーク(11:30-12:00)	①1名 ②0名
	7月 3日(木) 15:00~18:00	①ゆるっと自習室(15:30-16:30) ②まったりChill time(17:00-17:30)	①0名 ②0名
	7月 6日(日) 18:00~20:00	きいたんの部屋(18:30-19:30)	0名
OPEN	7月 8日(火) 9:30~12:30	①おためしVYC(10:00-11:00) ②スタッフラジオ(11:30-12:00)	①0名 ②0名
	7月10日(木) 15:00~18:00	①ゆるっと自習室(15:30-16:30) ②まったりChill time(17:00-17:30)	①0名 ②0名
OPEN	7月13日(日) 18:00~20:00	推しトーク「好きなアニメ」(18:30-19:30)	3名
OPEN	7月15日(火) 9:30~12:30	①おためしVYC(10:00-11:00) ②スタッフラジオ(11:30-12:00)	①0名 ②0名
	7月16日(水)①10:00~13:00 ②18:00~19:00	①大宮ろう学園デモ(10:00-13:00) ②県立春日部高校定時制デモ(18:00-19:00)	①27名 ②6名

※ OPEN :オープンDAY実施日(未登録でも参加可能)

7月活動実績(2)

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
7月17日(木) 15:00~18:00	①お仕事トーク(15:30-16:30) ②ゆったりChill time(17:00-17:30)	①0名 ②0名
7月20日(日) 18:00~20:00	イバショビルド(18:30-19:30)	0名
7月22日(火) 9:30~12:30	①ゆるっと自習室(10:00-11:00) ②スタッフラジオ(11:30-12:00)	①0名 ②0名
7月24日(木)① 9:30~10:40 ②③15:00~18:00	①子ども未来応援センターデモ(9:30-10:40) ②おためしVYC(15:30-16:30) ③ゆったりChill time(17:00-17:30)	①6名 ②3名 ③0名
7月26日(土) 16:30~18:30	観るラジオ☆バーたま!(17:00-18:00)	0名
7月29日(火) 9:30~12:30	①テーマトーク「好きな本」(10:00-11:00) ②ランチトーク(11:30-12:00)	①0名 ②2名
7月31日(木) 15:00~18:00	①ゆるっと自習室(15:30-16:30) ②ゆったりChill time(17:00-17:30)	①0名 ②0名
		7月利用者(述べ人数)
		7月登録者数
		48名
		34名

OPEN

OPEN

その他、活動実績

広報活動 実績

- デモ活動(ほりさきマルシェ*1、ほりさきたまり場*2、鳩山町若者の集い「やきいも」、県立特別支援学校大宮ろう学園、県立春日部高校定時制課程、富士見市子ども未来応援センター)
- 高校訪問(県立大宮中央高校単位制定時制課程、県立大宮商業高校定時制課程、県立上尾高校、県立上尾橘高校、県立春日部高校定時制課程、県立蓮田松陰高校、県立大宮工業高校定時制課程)
- 支援機関訪問(さいたま市こころの健康センター)
- つながりのある中学・高校・大学、地域団体等にチラシ配布(約1500部)
- SNS：LINEにて最新情報を配信。Instagram更新(1週間に1回程度)。
- 子ども食堂に設置する卓上POP作成中
- 広告用1分ショート動画作成

*1 さいたまユースサポートネット主催

*2 さいたまユースサポートネット主催居場所事業

バーチャルユースセンター どんなところ???

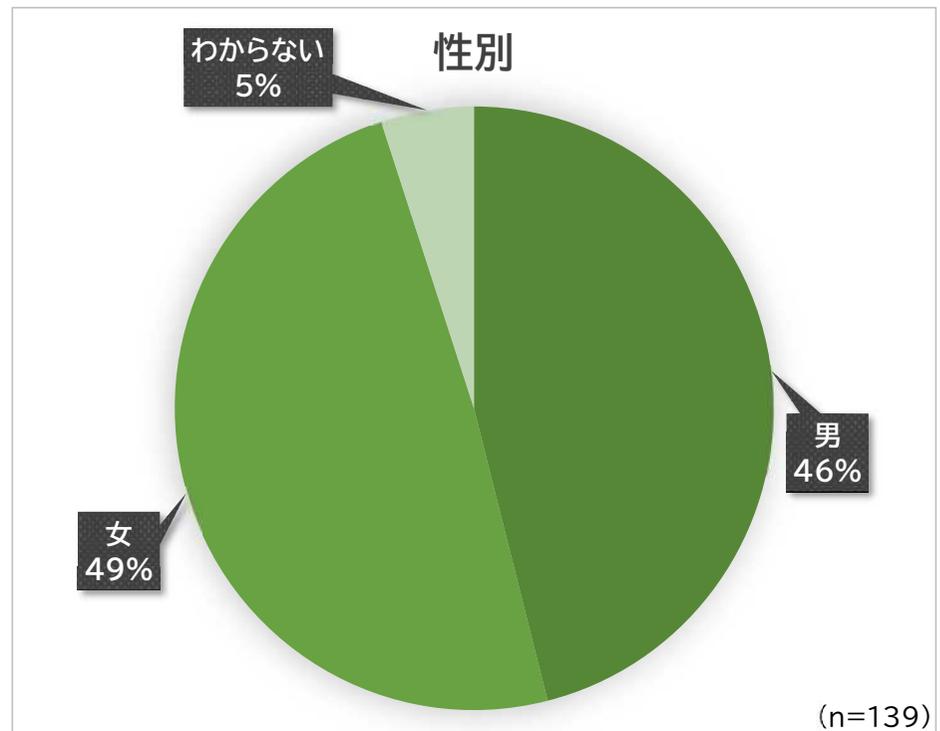
利用登録者数

	利用者(延べ人数)	登録者
10月	99名	21名
11月	102名	16名
12月	71名	27名
1月	41名	5名
2月	30名	23名
3月	19名	16名
4月	9名	10名
5月	45名	10名
6月	33名	11名
7月	48名	34名
	利用者累計	登録者累計
	497名(7/31時点)	173名(7/31時点)

利用登録者の傾向

性別	男	64
	女	68
	わからない	7

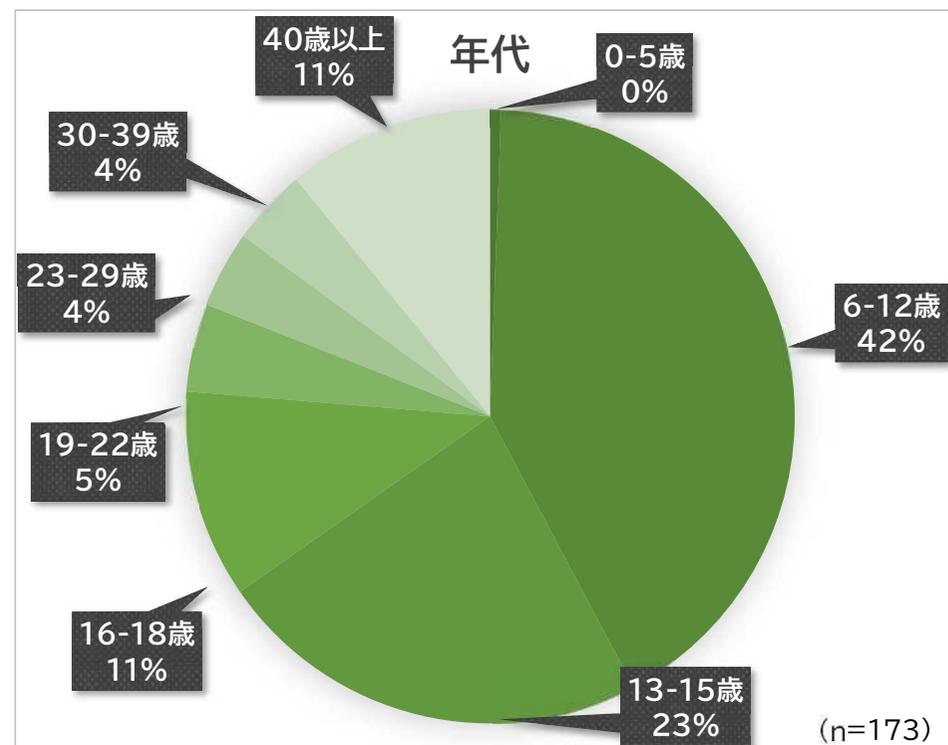
※ R7.6.30時点での登録者139名の内訳



利用登録者の傾向

年代	0-5歳	1
	6-12歳	72
	13-15歳	40
	16-18歳	19
	19-22歳	8
	23-29歳	7
	30-39歳	7
	40歳以上	19

「40歳以上」では、学校教員や支援機関の職員、保護者等からの登録も含まれています。

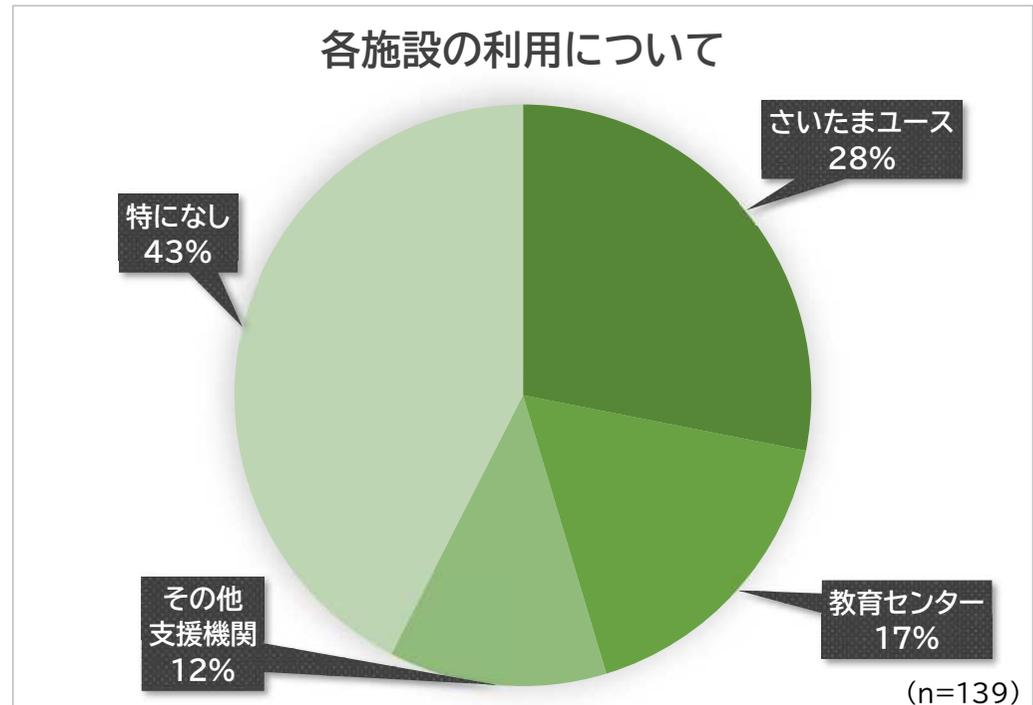


利用登録者の傾向

各施設	さいたまユース	39
	教育センター	24
	その他支援機関	17
	特になし	59

※ R7.6.30時点での登録者139名の内訳

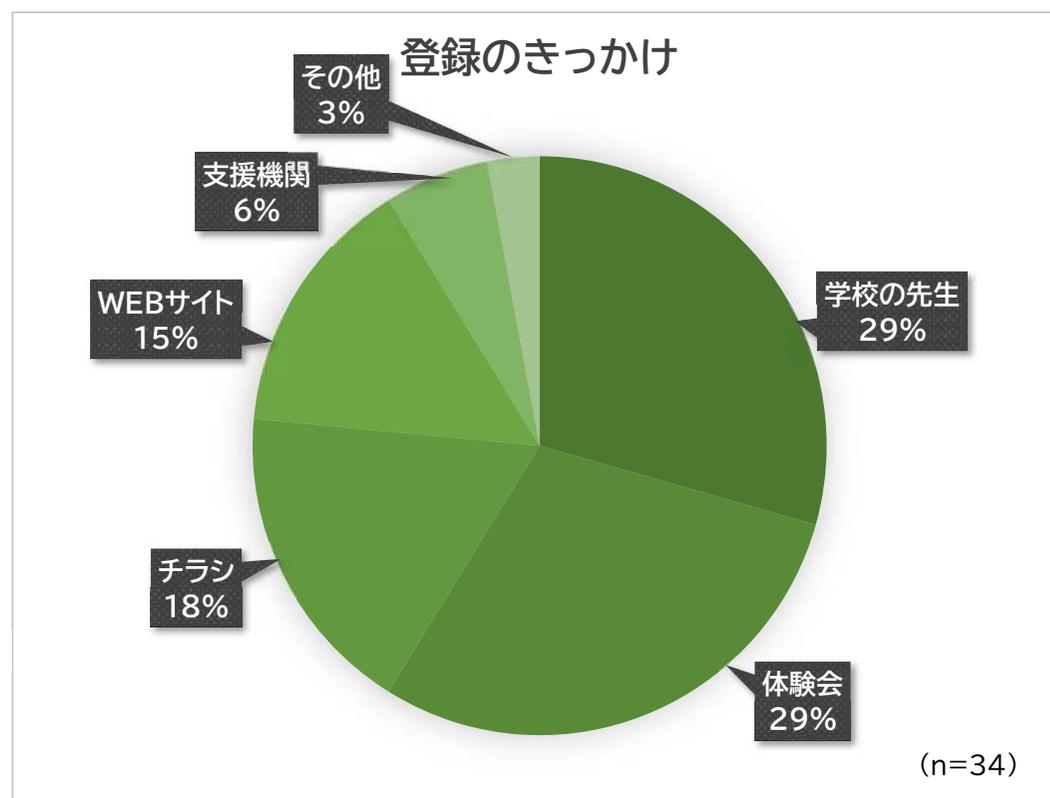
「特になし」は、イベントでVYCを知った方や公共施設や学童クラブでVYCの情報を得た方、県実施のアンケート等からの登録も含まれています。



利用登録者の傾向

登録の きっかけ	学校の先生	10
	体験会	10
	チラシ	6
	WEBサイト	5
	支援機関	2
	その他	1
	SNS	0
	インターネット広告	0

※R7.7.1～ R7.7.31



参加者の声(10月)

感想	意見・要望など
<ul style="list-style-type: none">• 楽しい。• 顔を出さなくていいのが良い。• チャットでのやり取りは抵抗感が少ないと思う。• 対面での交流のほうが好み。	<ul style="list-style-type: none">• 不登校の子ども(小5)の保護者より、「居場所のない時間にオンラインで参加できる場所があることがありがたい」。• アバターを自由に作成できるようにしてほしい。• (バーチャル埼玉内で)季節ごとのイベントがあると楽しい。• 土日や夜の時間など、施設が開いていない時間に利用したい。• ログ機能があると良い(誰がどの時間にいたかわかるように)• チャットに「いいね!」などのリアクションがあると良い。• リアルタイムで文章を考えるのが苦手なので、テーマトーク以外で、ゆるっと気軽に雑談したい。

※アンケートは、デモ及びプログラムを実施した下記施設にて、参加した小学生・10代～20代の若者に直接聞き取りとアンケート記入により収集。

- さいたま市若者自立支援ルーム
- 上尾市子ども若者自立支援ルームここから
- 子ども第三の居場所あそぼっくすほりさき
- 就労支援はたチカプログラム

参加者の声(11月～12月)

感想・興味を持ったきっかけ	意見・要望など
<ul style="list-style-type: none"> • (デモに参加した小学生) 遠くから画面を見たら、よく知っているゲームに似てたから参加した。アドベンチャーエリアでみんなと一緒に遊んだのが楽しかった。(バーチャル埼玉の中で)また会う約束をしたので登録してみたい。 • (小学生の子どもと一緒にデモを体験した保護者) 自分の住んでいる自治体にもオンライン上の不登校支援センターはあるのだが、少し学校っぽいので子どもにはなじまない。もっとゆるやかな居場所みたいなものがないかと思い参加してみました。 • (30代) ひきこもり支援機関につながっているが、他の人と一緒に参加するリアルプログラムはまだ無理があるので、自分のペースで参加できそうなバーチャルユースセンターに興味を持った。 	<ul style="list-style-type: none"> • (プログラムに参加した小学生) 見るだけじゃなくて体験コーナーがほしい。蔵造りブースエリアでコバトンコインを集めるのは楽しかった。もっと面白いと知名度が上がると思う。 • (20代) 仮想空間上でオンライン配信できるのは画期的だと感じた。しかし配信画面の画質が悪いのが気になった。 • (20代) キャラクターで他者との差別化ができず、誰が誰なのか見分けがつきにくい。髪型や髪色、メガネ等のアクセサリや服などは変更できると個性が出せる。またアバターのリアクションや他のアバターの様子が分かりにくい。

※イベントでのデモ及びプログラムを実施した下記施設にて、参加者や問合せがあった方より直接聞き取りにより収集。
さいたま市若者自立支援ルーム／上尾市子ども若者自立支援ルームここから／子ども第三の居場所あそぼくすほりさき／就労支援はたチカプログラム

参加者の声(1月～2月)

感想・興味を持ったきっかけ	意見・要望など
<ul style="list-style-type: none">• (不登校の子どもをもつ保護者) 不登校をテーマにした報道でVYCを知り、登録につながる。アバターで他者と交流できるところに惹かれ、きっかけになればと思った。• (不登校の子どもをもつ保護者) 教育支援センターでのデモで子どもが興味を持ったため登録。• (デモに参加した小学生) みんなできて楽しかった。(バーチャル埼玉に) 鉄道を走らせてほしい、運転してみたい。アウトドアエリアの自転車も自分で操作したい。自分が住んでいる市ができるとうれしい。	<ul style="list-style-type: none">• (プログラムに参加した小学生) 自分でプログラムを企画したい。好きなものを紹介したい。• (プログラムに参加した30代若者) チャットのUI(ユーザーインターフェイス)を全体的に改良してほしい。フリック入力だけでもできるようにしてほしい。• (デモに参加した20代若者) オンラインに居場所があればいいという訳ではない。会いたい人がそこにいるから(リアルな居場所に)行っている。• (デモに参加した20代若者) すでに相談できる(リアルな)場所があるからバーチャルで相談しようとは思わない。顔が見えない人には、相談しない。安心感がないから。

※デモ及びプログラムを実施した下記施設にて、参加者や問合せがあった方より直接聞き取りにより収集。
クローバーハウス／本庄市教育支援センター／NPOクラブしっくーず／さいたま市若者自立支援ルーム／上尾市子ども若者自立支援ルームここから

参加者の声(3月～5月)

感想・興味を持ったきっかけ

- (20代の若者)
県外のユースセンターを訪れたことをきっかけに、埼玉県でも同様の場所がないかとインターネットで検索したところ、VYCがヒットした。本当はリアルのユースセンターで体を動かしたい。
- (中学生の子どもの保護者)
県内の支援機関からVYCを紹介された。子どもに紹介する前に、まずはお試しで登録。
- (中学生の子どもの保護者)
県庁のLINEでVYCを知った。子どもが対面でのコミュニケーションが苦手なので、メタバースで交流の機会ができればと思い、登録。
- (デモに参加した小学生の子どもの保護者)
デモで実際にスタッフの顔を見ると安心感がある。
- (プログラムに参加した高校生)
よく観ているVTuberの配信だとチャット欄が穏やかで温かい。VYCも同じように大人が見守り、否定されない安心感があった。
- (デモに参加した高校生)
なんかすごかった。
- (デモに参加した高校生)
離れている人と交流できるのがいいと思った。
- (デモに参加した高校生)
相談とかはメールとかがいいかな。対面だと相談しづらいし、なんか気まずい。

※デモ及びプログラムを実施した下記施設にて、参加者や問合せがあった方より直接聞き取りにより収集。
子ども地域ネットワーク所沢/みさとこども食堂/デモクラティックスクール さいたま あみゅーず/県立和光高校/上尾市子ども若者自立支援ルームここから

参加者の声(3月～5月)

意見・要望など

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">• (デモに参加した小学生)
タイムトライアルで競って遊べるようになったらいいな。• (デモに参加した中学生)
シール交換が好きなので、リアル活動があれば参加したい。(アウトドアエリアの)アスレチックの種類をもっと増やしてほしい。• (バーチャル埼玉を体験した大学生)
拡張性がなくて残念。• (デモに参加した高校生)
普段プログラミングなどでメタバース上の街や建物、空間を造っているのに、バーチャル埼玉はなににもできないと感じる。例えば、一緒にワールドを作りながら話したりできたら楽しいかも。 | <ul style="list-style-type: none">• (プログラムに参加した高校生)
登録の際に、個人情報を入力することに抵抗があった。• (プログラムに参加した高校生)
意見交換をしたら、まずはリアルがあって、次点で顔出しアリのオンライン、その後にアバターでの交流ならあり得るかも。• (プログラムに参加した30代)
コミュニケーション空間としては物足りない。アドベンチャーエリアやアウトドアエリアでチャットができたらいいの。相談エリアでオープンチャットをするとトークが流れてしまう。グループチャットができればいいのに。相談エリアに入るのにエントランスを経由するのが面倒だった。 |
|--|---|

※デモ及びプログラムを実施した下記施設にて、参加者や問合せがあった方より直接聞き取りにより収集。
子ども地域ネットワーク所沢/みさとこども食堂/デモクラティックスクール さいたま あみゅーず/県立和光高校/上尾市子ども若者自立支援ルームここから

参加者の声(6月～7月)

意見・要望など

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none">• (デモに参加した特別支援学校の高校生)
とても面白かった。車いすに乗っている人や人工内耳をつけている人のアバターが選べるという。• (デモに参加した20代)
離れててもこの中でスタッフさんと話せるのがいいと思った。• (高校の先生)
学校が夏休み期間でも安心して相談できるようにと思って、生徒たちにVYCを紹介しました。• (高校の養護教諭)
ケガ等の利用ではなく、お話をしたりサボったりするために保健室に来る生徒たちに、VYCのようなオンラインの居場所があると良いと思いました。 | <ul style="list-style-type: none">• (デモに参加した小学生)
操作しにくいし、コイン探しが面倒。バグを見つけるのが楽しいタイプの自分にとって、(バーチャル埼玉はバグが少ないので)あまり面白みがない。• (デモに参加した20代)
バーチャルだと相談はちょっと怖い。• (体験会に参加した30代)
体験会で初めてVYCを知った。HPも見たが、ここで何ができるのか、誰と出会えるのかよくわからず、コンテンツが見えない。 |
|---|--|

※デモ及びプログラムを実施した下記施設にて、参加者や問合せがあった方より直接聞き取りにより収集。
ほりさきマルシェ／ほりさきたまり場／鳩山町若者の集い「やきいも」／県立特別支援学校大宮ろう学園／県立春日部高校定時制課程

参加者の声を受けて(10月)

- 基本は『利用登録⇒参加』という流れではあるが、居場所を必要とする子どもや若者は安心できる場と感じられて初めて参加・活動することができるため、『お試し参加⇒利用登録』という流れも必要だと考える。
- VYC開始段階ということもあり、利用者からの感想としてアプリの仕様に関する要望事項も多かった。今後プログラムに関する要望や、やりたいことなどをアンケートやプログラム後の交流時間を活用し聞き取っていきたい。
- さいたまユースの各事業プログラムに参加している子ども・若者や、ご協力いただいた狭山市教委の適応指導教室「茶レンジルームひだまり」の出席生徒はすでに、リアルな居場所に参加することができる。その上で、もうひとつの居場所としてVYCを周知し、利用拡大に努める。
- 一方で、各支援機関につながってはいても自宅等にこもりがちだったり、電話でしか連絡が取れないといった層も一定程度おり、VYCがそうした人たちの「居場所」となれるよう、各支援機関と連携して積極的にアプローチしていく必要がある。
- さいたまユースでは、リアル居場所への来所が少ない利用者に対して、なじみのスタッフを通して一斉メールなどでVYCを紹介している。今後、直接電話する等の個別対応も検討する。

参加者の声を受けて(11月～12月)

- プログラムに関しては「楽しかった」という声も多いが、参加者が少人数の日もある。今後、ターゲットを明確にしたプログラムを打ち出すなど周知方法を工夫していく。引き続き、プログラムに関する要望ややりたいことを聞き取っていく。
- 保護者の方や支援機関につながっている方の中で、自分のペースで参加できることを期待して、バーチャルユースセンターに興味を持ってくれた方がいた。そのニーズに応えられるようなプログラムを検討していく。

参加者の声を受けて(1月～2月)

- 子ども・若者自身が企画するプログラムを増やしていく。
- すでにリアルに居場所を持っている子ども・若者にとって、バーチャル空間は参加の選択肢が増えた状態であり、リアルの居場所の補完的な存在。
- 不登校の状況にある等、居場所を喪失していたり、どこか自分に合う居場所を探している子ども・若者(とその保護者)にニーズがある可能性。
- バーチャル空間での活動を通じて、段階的にリアルの居場所につなぐ橋渡しの場を目指していく。

参加者の声を受けて(3月～5月)

- 「スタッフの顔を見せる」ことが安心感や入ってみようという気持ちにつながることから、継続してこども・若者の居場所づくりを行っている場所にデモを実施する。
- 登録したきっかけの中に、「リアルな居場所を探してバーチャルユースセンターにたどりついた」「中学生時代にいじめに遭い対面でのコミュニケーションが苦手」などがあつた。対人恐怖や集団への恐怖、教師や保護者とのコミュニケーション不足など、他者との関わりを喪失し孤立している層に対して、継続的にアプローチを行っていく。具体的には、SNSによる情報発信を通じたVYCの認知度向上、学校とつながっている子に対しては、各市の教育支援センターや定時制・通信制高校等、地域の「居場所」への訪問やデモをひき続き実施していく。
- 「その他支援機関」につながっている方からの登録が少しずつ増えてきている。事業周知が進んできていると考えられるため、支援機関への事業周知を継続して行う。つながっている機関が「特になし」の方からの登録も増えている。これには、さいたまけん★こどものこえアンケート回答者や対象年齢ではない保護者・高齢世代も含まれる。(1)

(1)前回資料からの伸び(人)：さいたまユース+10、支援センター+1、その他支援機関+12、特になし+36

運営を通じて見えてきたこと

子ども・若者の声から	<ul style="list-style-type: none">• アプリ自体に面白味を求める• アバターの自由度、ワールド制作の自由度を求める• 「なんとなくふらっと」入れる場所ではない
保護者の声から	<ul style="list-style-type: none">• 県内中心部から離れた地域では、資源が限られている• 保護者の困り感、子どもに合う育ちの場や支援機関を探している• 保護者自身の孤立
プログラム運営から	<ul style="list-style-type: none">• バーチャル埼玉内では、非言語で「自分らしさ」を出すことが難しいが、非言語で自己表現をしたい子ども・若者もいる• スタッフや参加者との関係づくりのために、言語によるコミュニケーションを取らざるを得ないが、即座な言語化が難しい子ども・若者も多い• メタバースは大きな可能性を持つ空間であるが、現状は言語によるコミュニケーションに頼るところが大きい• 年代で楽しみ方や話題が異なるため、プログラムを分けたほうがよい• 毎回参加するほどの定着はないものの、1～2か月に1回参加する利用者もいる
実際の利用状況から	<ul style="list-style-type: none">• さいたまユース利用者 → リアルの居場所にデモに行ったりスタッフが直接誘うと好意的に参加し楽しんでくれている。リアルで一緒にやるから楽しい。• 教育支援センター利用者 → 定着が見られない• 一般の申込み → 登録はあるものの定着が見られない

参加者の声を受けて(6月～7月)

- 「スタッフの顔を見せる」ことが安心感や入ってみようという気持ちにつながることから、継続してこども・若者の居場所づくりを行っている地域の居場所や高校等への訪問・デモを実施する。
- VYCは「遊べる場所」としての機能は低いため、テキストチャットやボイスチャットによるコミュニケーションとしての場の機能を高めるようなプログラムを設定する。
- SNSでの頻繁な情報発信や定期的な動画広告掲示を通して認知度向上を図る。どんなことができる空間か(推しトークや本音トーク、個別相談等)を明示する。
※次回動画広告(予定):8月14日～8月18日
- グループワークルームでプログラムを開催していると、ふらっと来た人には何もやっていないように見えるため、オープンテラスを活用してVYCの活動を“見える化”し、参加への動機づけにしたい。

今後の方向性

◆プログラムに関して

- 開室日時を固定 : 火曜日・木曜日(16:00~19:00)、日曜日(19:00~21:00)
※8月(夏休み期間)の全開室日を未登録でも参加可能なオープンDAYとする
※8月(夏休み期間)のみ火曜日の実施時間を13:00~16:00に変更
→火曜日は主に小学生向けのプログラム<遊び中心>
- 今後は開室日全日を未登録でも参加可能とする
- 好きなことや悩みごとを共有し、共通項でつながるきっかけになるプログラム運用
例)推しトーク、もやトーク「友人関係の悩み」、ぶっちゃけトーク「学校行きたくない！」等

◆個別相談に関して

- 上記、開室時間に合わせて実施
- 事前予約制、当日に空きがあれば予約不要で相談可
- 個別相談のテーマを明確にしてHP・SNS等に記載 例)「不登校」「進路」「友人関係」「性」等

バーチャルユースセンター

夏の特別企画！！
8月は未登録でも参加できる！

<開室時間>

火曜日 13:00～16:00 (小学生向け)

木曜日 16:00～19:00

日曜日 19:00～21:00

※19日(火)は09:30～12:30

開室時間内に特別プログラムを実施します。

ちょこっと見学だけでもOK！
お気軽にご参加ください



Pick Up!

19
(火)

きいたんの部屋 ～世界を広げよう～

ゲストは、夢を叶えて書道の先生になったあやの先生。
100名の生徒に教えながらご自身も書道のコンクールに挑戦
しているあやの先生に聞く、夢の叶え方！



24
(日)

保護者のための“こころの保健室”

不登校のお子さんを持つ保護者の悩みや質問に、
元養護教諭のゆみこ先生がやさしく答えます！



おすすめ！

小学生スペシャル！

8月5日(火) 14:00～15:00

夏の謎解きゲーム

バーチャル埼玉のどこかに隠れたスタッフを探せ！

埼玉県バーチャルユースセンター (VYC)

おすすめ!

17
(日)

20:00~
21:00

イバショビルド ~高校生以上対象~

ざっくばらんに、語ろう!
自分たちにとって居心地の良い居場所って?
バーチャルユースセンターでどんなことをしてみたい?

*テーマ
自分たちに必要な
居場所とは?



もやトーク

日頃の悩みをスタッフに打ち明けたり、
同じ悩みを持つ人とつながる
きっかけに。

ぶっちゃけトーク

その日のテーマで本音を語りませんか?
みんなの話を聞くだけでもOK!

8月のテーマは
「学校行きたくない!」



進路

友人関係

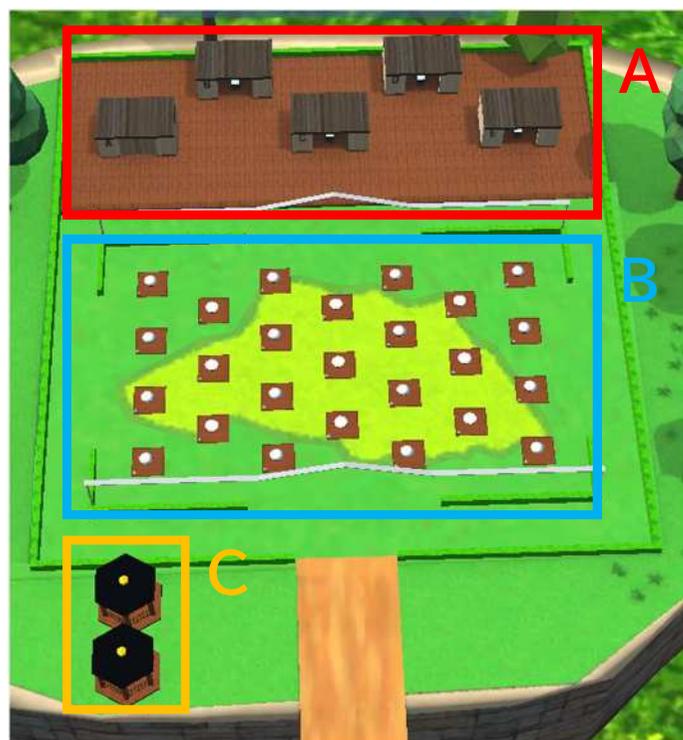
不登校

このほかにも、気になるプログラムがたくさん!
詳しい日程はイベントカレンダーをチェック!

埼玉県バーチャルユースセンター (VYC)

◆オープンテラスの活用に関して

- 相談エリア全体を活用した運用とする → オープンテラス、鍵付き相談ブースの活用
- 活動の様子が外から見えることで、参加しやすい環境をつくり、参加の動機付けにつなげる
- 参加者がどの活動に参加するのか(しないのか)選べるようにして、参加の自由度を高める



相談エリア入口

名称	説明	主な利用用途
A 鍵付き相談ブース	<ul style="list-style-type: none"> • 入口扉の開閉が可能。 • チャットや画面共有の内容はブース外からは見えない。 	クローズドな個別相談等
B オープンテラス	<ul style="list-style-type: none"> • 入口の開閉が可能。 • テーブルごとにグループチャットが可能。 • テーブルの出入り自由。 	スタッフとのおしゃべりや自習等、参加者のニーズに合わせた利用
C グループワーク ルーム(車座・教室)	<ul style="list-style-type: none"> • 入口扉の開閉が可能。 • 鍵付き相談ブースより広い空間で、空間内の全員とチャットが可能。 	講座型のプログラム等

* プログラムの内容によって適宜活動場所を調整

令和7年度

埼玉県バーチャルユースセンター・プログラム概要まとめ(令和7年4~7月)

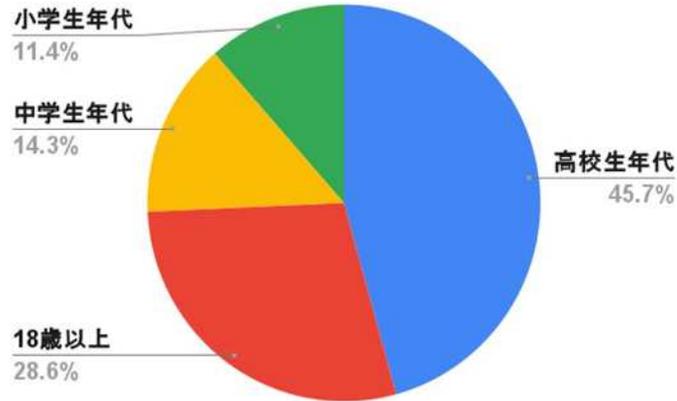
	プログラム	実施日	内容	回数	参加者数
1	テーマトーク／推しトーク／ランチトーク	4月5日(土)/オープンDAY、11日(金)、15日(火)、18日(金)、22日(火)、25日(金)、26日(土) 5月1日(木)、3日(土)/オープンDAY、7日(水)、9日(金)、20日(火)、21日(水)、27日(火)、29日(木)、31日(土)/オープンDAY 6月3日(火)、17日(火)/オープンDAY、24日(火)、26日(木)、28日(土) 7月1日(火)/オープンDAY、13日(日)/オープンDAY、29日(火)2回/オープンDAY	その会ごとにテーマを設定し、ボイスチャットやテキストチャットを使って参加者と自由におしゃべりを楽しむプログラム	25	18
2	探検／はじめてのVYC／おためしVYC	4月2日(水)/オープンDAY、4日(金)/オープンDAY、10日(木)、17日(木)、24日(木) 5月13日(火)/オープンDAY、22日(木)/オープンDAY 6月8日(日)/オープンDAY、10日(火)、17日(火) 7月8日(火)/オープンDAY、15日(火)/オープンDAY、24日(木)/オープンDAY	初めて参加する方や、不慣れな方へのオリエンテーションとして、バーチャル埼玉ツアーや車座での交流をし、VYCの説明をする	13	15
3	ゆるっと自習室	4月9日(水)、16日(水)、23日(水)、30日(水) 5月8日(水)、15日(木) 6月5日(木)、12日(木)、19日(木) 7月3日(木)、10日(木)、22日(火)、31日(木)	ドリルや宿題などを参加者が持ち寄り、各自学習する 質問などにスタッフが答える	13	2
4	まったりChill time	5月8日(木)、15日(木)、22日(木)/オープンDAY、27日(火) 6月5日(木)、12日(木)、19日(木) 7月3日(木)、10日(木)、17日(木)、24日(木)/オープンDAY、31日(木)	環境音楽の配信／学習プログラムや、トークプログラムの後に、環境音楽を聴きながら心身を休める時間を過ごす	12	1
5	スタッフラジオ	5月1日(木)、13日(火)/オープンDAY 6月10日(火)/オープンDAY、24日(火) 7月8日(火)/オープンDAY、15日(火)/オープンDAY、22日(火)	スタッフトークの配信／スタッフが何気ない日常をトークし、参加者が聴く。チャットの書き込みも受け付ける	7	3

	プログラム	実施日	内容	回数	参加者数
6	観るラジオ☆バーたま！	4月3日(木)/オープンDAY 5月29日(木) 6月26日(木) 7月26日(土)	スタッフがパーソナリティとなりゲストの話を聴く、ラジオ的プログラム 出演者がそれぞれZoomを通して対談、カスタムパネルにZoomの画面を投影し参加者が視聴する 音声は、車座に配置したアバターのマイクを使用する	4	4
7	暦のハナシ	4月8日(火) 5月7日(水) 6月3日(火) 7月1日(火)/オープンDAY	西暦と和暦の違いや暦、毎月の行事について学ぶ	4	2
8	イバショビルド	5月18日(日) 6月22日(日) 7月20日(日)	「自分たちに必要な居場所とは？」というテーマで、ざっくばらんに語り合い、自分たちが求める居場所について意見発信をする	3	1
9	お仕事トーク	4月28日(月) 5月20日(火) 7月17日(木)	毎回ごとにテーマを決め、その職業に詳しい講師や現役の業界人を招いて講話や対話形式で話を聴く	3	0
10	きいたんの部屋	6月14日(土) 7月6日(日)	VYCスタッフがゲストを招きトークをする	2	1

【参考】埼玉県バーチャルユースセンター デモ参加者アンケート結果

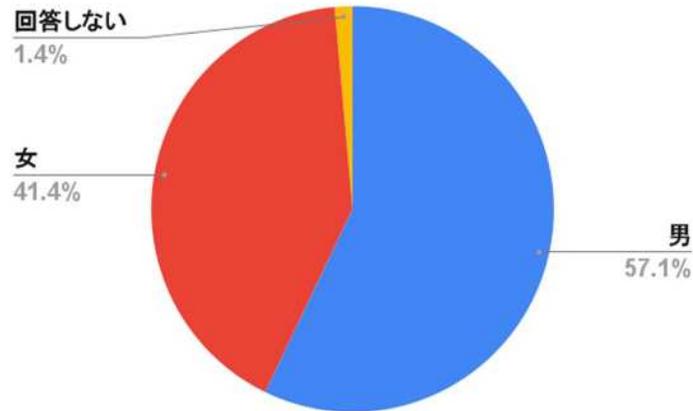
質問① (回答数:70件)

あなたの年代を教えてください。



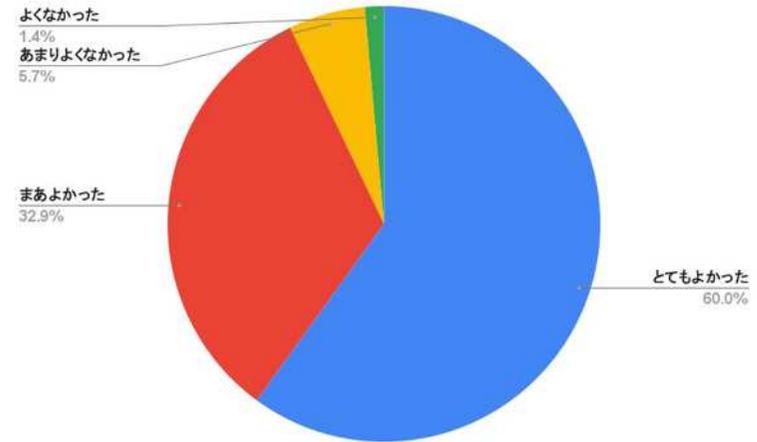
質問② (回答数:70件)

あなたの性別を教えてください。



質問③-1 (回答数:70件)

バーチャル空間でアバターになってバーチャルユースセンターに参加したことについてあなたの考えに近いものを1つ選んでください。



* 本アンケートの回答者は
コンパスナビ、狭山市・本庄市教育支援センター、しっきーず、
地域子育てNW所沢、さいたまあみゅーず、和光高校、大宮ろう
学園、そのほかさいたまユース数名

【留意事項】

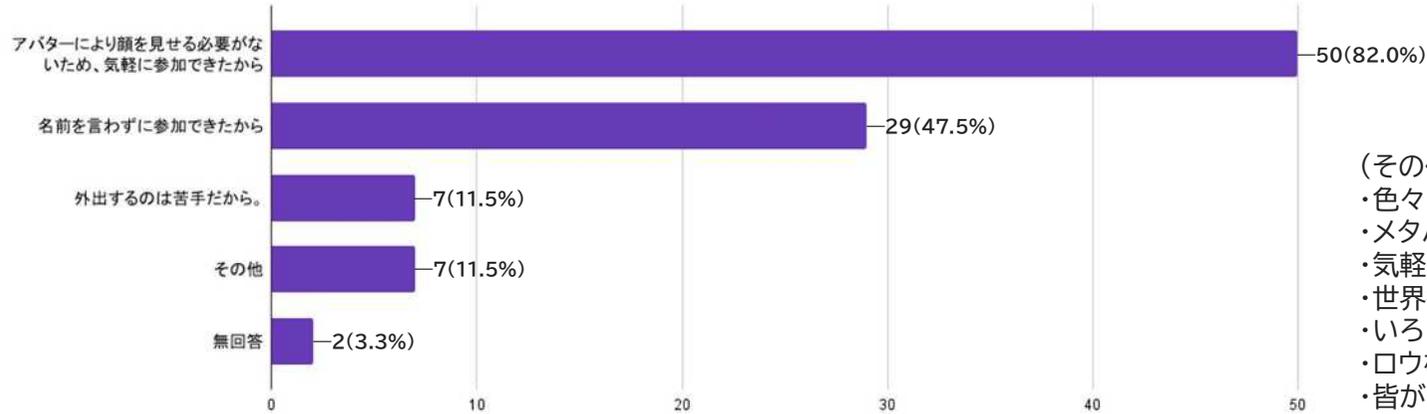
- ① 対面でアンケートをとっている。
- ② 1～2回程度のデモ参加者にアンケートをとっている。

【参考】埼玉県バーチャルユースセンター デモ参加者アンケート結果

質問③-2

(回答数:61件)

(「とてもよかった」「まあよかった」を選んだ方にお聞きします。)よかった理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。



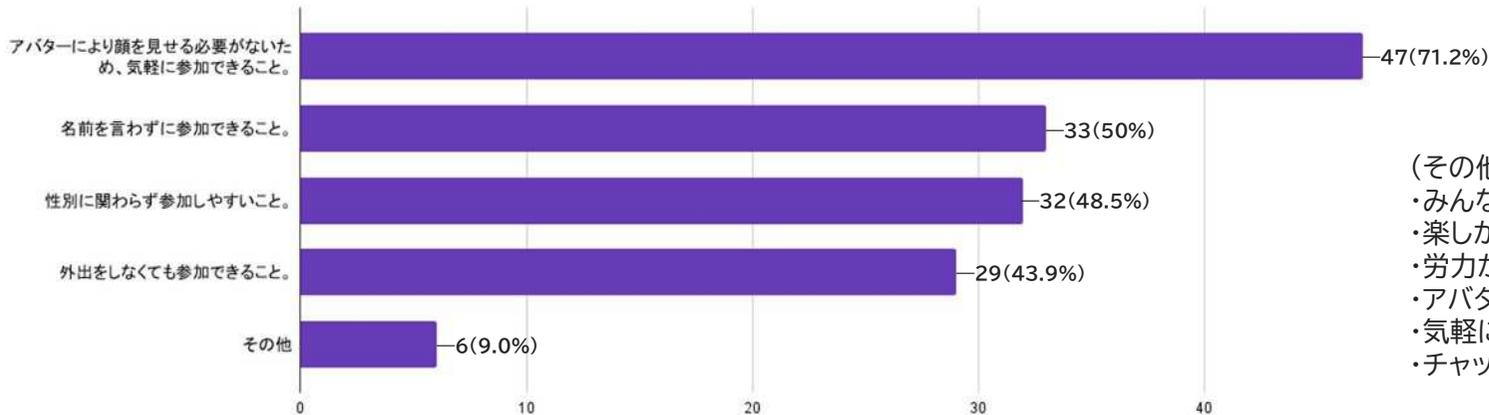
(その他)

- ・色々な人のチャットのコメントが楽しかった。
- ・メタバースを一度体験してみたかったから。
- ・気軽に来ることができるから。
- ・世界観が好き
- ・いろいろあそべてたのしかった
- ・口ウなのでコミュニケーションしやすくよかった
- ・皆が集まることで、良い会話になったから

質問④

(回答数:66件)

バーチャル空間の良い点はどのような点だと思いますか。あてはまるものを全て選んでください。



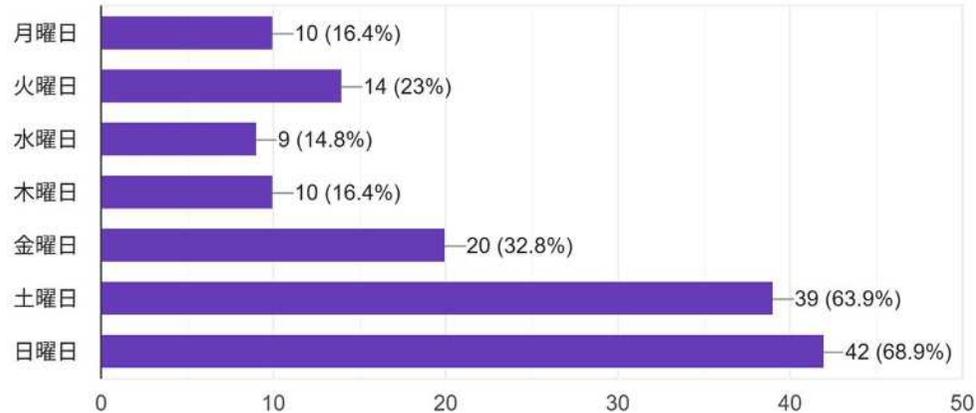
(その他)

- ・みんなでできたから
- ・楽しかった
- ・労力が少なくていい。寝ながら話せる
- ・アバターの操作ができた
- ・気軽にチャットなどができ、交流がしやすいと思った
- ・チャットの方が緊張しない時もあります

【参考】埼玉県バーチャルユースセンター デモ参加者アンケート結果

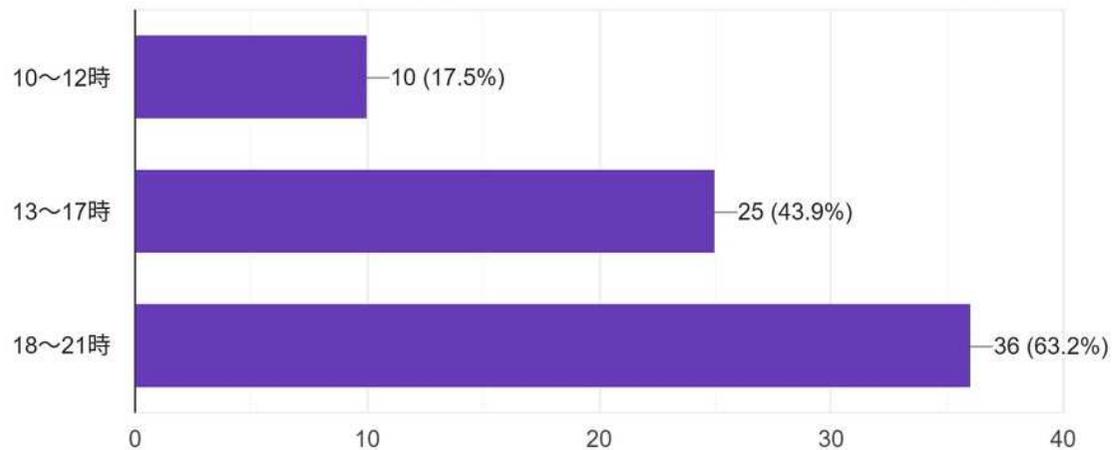
質問⑤-1 (回答数:61件)

バーチャルユースセンターに参加しやすい曜日について、あてはまるものをすべて選んでください。



質問⑤-2 (回答数:57件)

バーチャルユースセンターに参加しやすい時間帯について、あてはまるものをすべて選んでください。

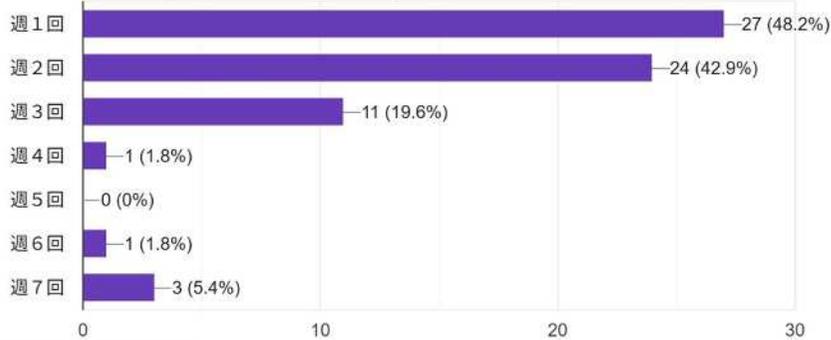


【参考】埼玉県バーチャルユースセンター デモ参加者アンケート結果

質問⑤-3

(回答数:56件)

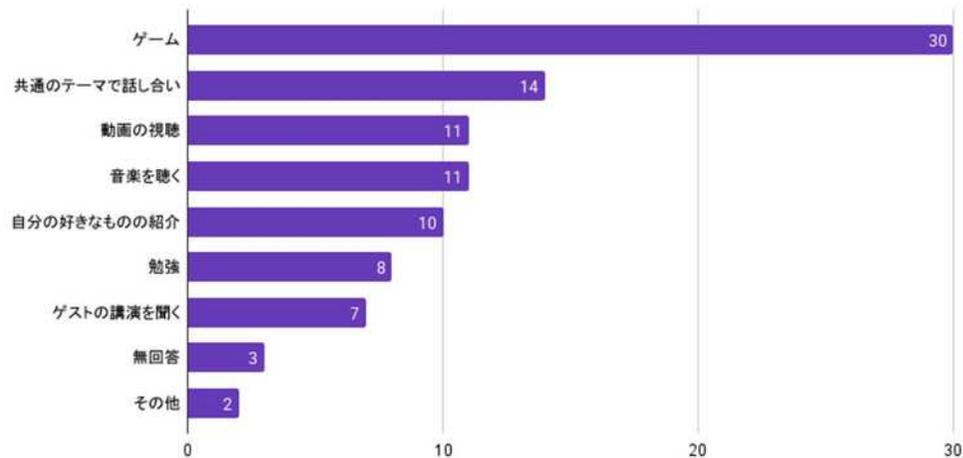
バーチャルユースセンターに参加しやすい回数について、あてはまるものをすべて選んでください。



質問⑥

(回答数:67件)

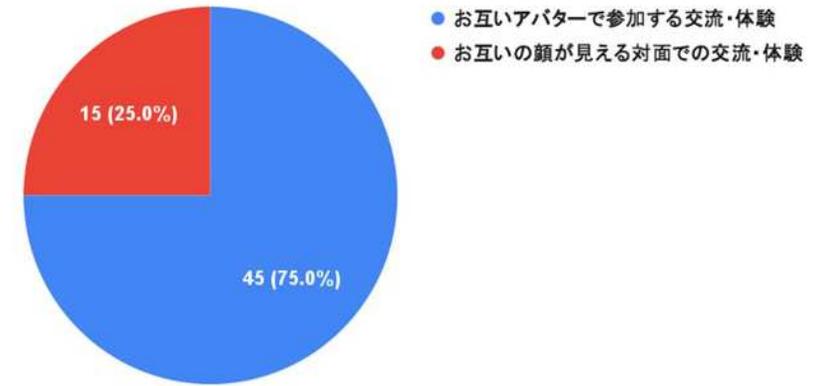
実施してほしい交流・体験プログラムを1つ選んでください。



質問⑦-1

(回答数:60件)

若者どうしの交流・体験プログラムに参加する際、お互いの顔が見える対面型と、お互いアバターで参加するバーチャル型のどちらかを選べる場合、あなたが参加したい方を選んでください。



(その他)

- ・全部
- ・ラジオ
- ・志木市を作ってほしい

【参考】埼玉県バーチャルユースセンター デモ参加者アンケート結果

質問⑦-2

(回答数:44件)

その理由を教えてください。

お互いの顔が見える対面での交流・体験	相手の方の表情や声のトーン、しぐさがとてもよくわかるし、一緒に話題や感情を共有するには、個人的意見として対面の方が深く関わると僕は考えて、僕自身人の表情がわかりにくくて 文章やリアクションだけだと誤解を生む こともあると考えたからです。
	表情などがわかりやすい
	表情が見えた方が相手の気持ちがよくわかるから、話しやすいと思うから。
	相手がどのような人かわからない上で関わりたいと思う。 信頼関係が成り立っていない人に話をしたいと思わない。(バーチャル上で)信頼関係をどう築くかが課題。
	そのほうがなかよくなれそうだから
	表情を読み取りたいから
	相手の顔を見れないから怖い
	顔を見るのが好きだから
	顔が見えてる方が気持ちを伝えやすい

お互いアバターで参加する交流・体験	顔を出したくないから
	今は顔を見せることに(あまり)抵抗はないが、見せたくない人が多いと思うので、それに合わせたい。
	わざわざ 「現地で集まる」という労力を使わなくていい から。 金銭的 な面で困っている人からすると、バーチャルで集まることにメリットがある。
	顔を出したくない人もいるから
	その方が 緊張しない ので
	顔見えるの 気まずい
	なんとなく
	顔は気まずいから
	現実社会だと、どうしても外見を気にしてしまい、出かけるために準備する時間がかかってしまうため、出かけて人に会うということのハードルが上がりめんどくさくなってしまう が、アバターであれば自分が思い立ったときにすぐにバーチャル空間に出て他人と交流できるから
	アバターを使うことで、対面の緊張感少なく気軽に交流できるから。身だしなみを気にせずに参加できる。
	初対面の方とも気兼ねなく会える と思うから
	人見知りでも参加しやすい
	自由が好き
	色んな人と関わったり、楽しめられるから。
	顔を見せるひつようながないため、プライベートが安全。
アバターの方がかわいいから。	
対面だとなんかちょっとやだ。さんかしづらい。	

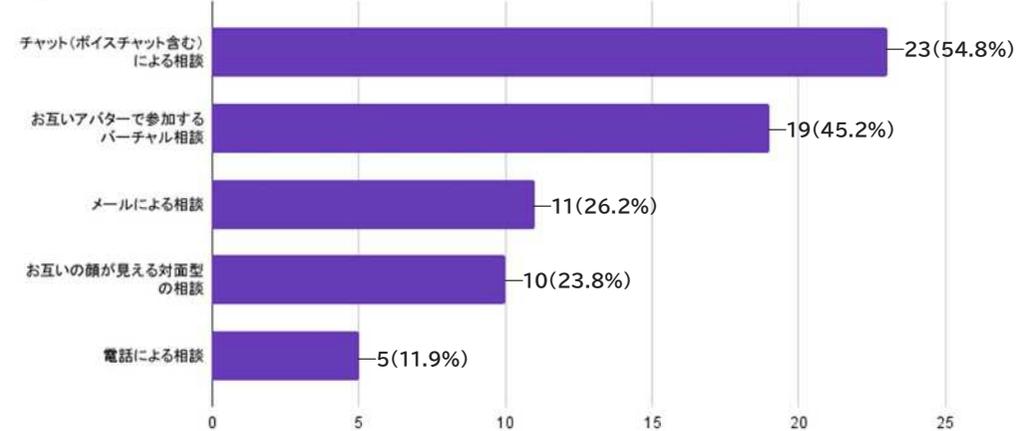
【参考】埼玉県バーチャルユースセンター デモ参加者アンケート結果

質問⑦-2

お互いアバターで参加する交流・体験	アバターの方がより話しやすいから
	アバターで参加したほうが気軽だから
	アバターで参加した方が話しやすいから。
	恥ずかしいから
	お互いより知ることができると思う
	顔を見て話すよりも、アバターで話した方が、楽かなと思ったから
	顔を見せず、安心してやりとりできるから
	顔を出す必要ないから
	気楽に参加できるから
	お互いの顔が見れないからです
	お互いの顔を見ない方が安心
	他の人と顔を合わせて話すと緊張をしてしまうため。
	安心して交流できるから。
	匿名なので気軽に参加できるから
アバターの方が立体的で面白そうだから	
他の人と顔を合わせて話すと緊張をしてしまうため。	

質問⑧-1 (回答数:42件)

(相談利用者のみ回答)あなたが悩みごとを相談する場合、どのような相談方法なら利用したいですか。あなたが利用したい方法をすべて選んでください。



質問⑧-2 (回答数:27件)

その理由を教えてください。

お互いの顔が見える対面型の相談	<ul style="list-style-type: none"> ・対面の方がラポールが形成しやすいから、相手の表情が見えるのは重要だ。 ・顔を合わせた方が相談しやすいから。
お互いアバターで参加するバーチャル相談	<ul style="list-style-type: none"> ・顔を見せずにメッセージなどを送り、リアクションがいっぱいあり、メールなどだと相手の思っている気持ちがわからないので、リアクションがあるのはとても良いと思った。 ・安全だし、話しやすい。 ・チャットよりみんなと一緒に交流した方が情報を得ることができるから

【参考】埼玉県バーチャルユースセンター デモ参加者アンケート結果

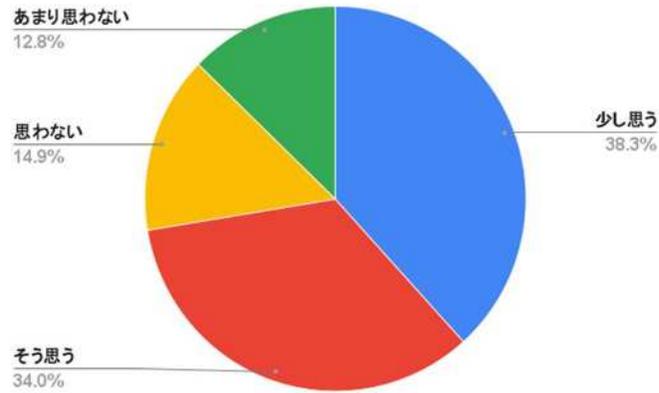
質問⑧-2

メールによる相談	<ul style="list-style-type: none"> ・アバターも顔もみえないから ・とくにない ・対めんだと相だんしづらいしなんかきまづい。 	お互いアバターで参加するバーチャル相談、チャット(ボイスチャット含む)による相談	<ul style="list-style-type: none"> ・バーチャル相談のほうがはなしやすそうだから。 ・チャットによる会話の方がスムーズで話しやすい ・チャットが一番楽 ・チャットがあった方が聴覚障害者でも参加する事ができるから
チャット(ボイスチャット含む)による相談	<ul style="list-style-type: none"> ・話しやすいから ・楽だから ・その方が話しやすい ・楽でキーボードで打つだけだから ・チャットの方が楽だからです ・チャットがあった方が相談しやすいから 	お互いアバターで参加するバーチャル相談、メールによる相談	アバターなら顔バレもなく自分の悩みを話せるからです
電話による相談	聞き取り／相談は信頼のおける人にする。顔が見えない人には相談しない。 一度会ったことがあるのが前提 で、対面で相談したい。バーチャル上では相談しない。	お互いアバターで参加するバーチャル相談、メールによる相談、チャット(ボイスチャット含む)による相談	お互いの顔が見える状態で相談することが不安が持っている人がいるかもしれない。だから、安心して相談することができると思う。
お互いの顔が見える対面型の相談、電話による相談	自分の話(悩み事)をする際に、できるだけ 的確に伝える には文章やアバターだとなかなか伝わりにくいので、声や相手の顔がわかって自分の気持ちが伝わりやすい電話や対面がいいと思いました。	お互いの顔が見える対面型の相談、お互いアバターで参加するバーチャル相談、電話による相談	リアルタイムで話せる。アバターや電話だと顔をあわせなくてよい。
お互いの顔が見える対面型の相談、チャット(ボイスチャット含む)による相談	どのような人と話しているかわかることで、安心感を得られるため。	お互いの顔が見える対面型の相談、お互いアバターで参加するバーチャル相談、チャット(ボイスチャット含む)による相談、電話による相談	内容によってツールを選べるのが良い かなと思った。
お互いの顔が見える対面型の相談、メールによる相談	直接の方が安心感がある		
メールによる相談、チャット(ボイスチャット含む)による相談	文章を書く方がラクだし、 気軽 な感じがするから。		

【参考】埼玉県バーチャルユースセンター デモ参加者アンケート結果

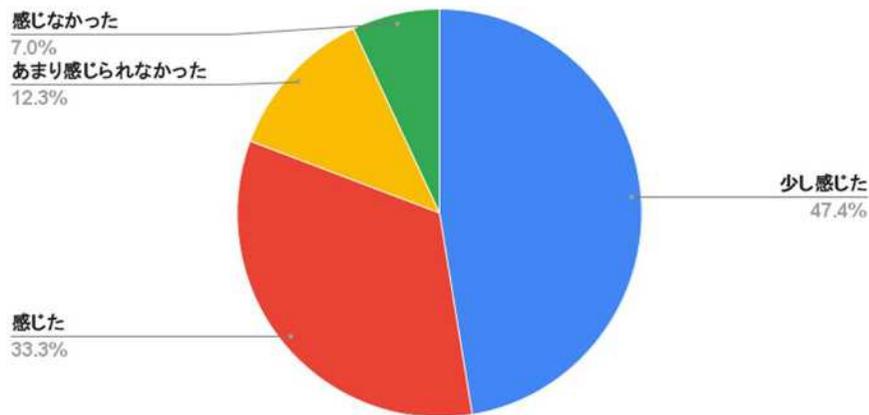
質問⑨ (回答数:47件)

(相談利用者のみ回答)バーチャル空間であれば、人に相談しにくいことも相談しやすいと思いますか。
あなたの考えに近いものを選んでください。



質問⑩ (回答数:57件)

バーチャルユースセンターを家(普段寝起きしている場所)や学校(授業や部活、クラブ活動)以外の「ここに居てもいい」という居場所と感じたか、
あなたの考えに近いものを1つ選んでください。



埼玉県バーチャルユースセンター・今後の方向性(案)について

事業目的

- あらゆるこども・若者が誰でも気軽に利用できる居場所の設置・運営【理念】
- 居場所がなく孤独を感じる、あるいは孤立しているこども・若者がバーチャル空間での交流などを通じて、安心して気持ちを表現し、自分のことを全てさらすことなしにつながって、自己実現を図ることができる【主なターゲット層・目的①】
- スタッフと信頼関係を構築し、抱える困難の深刻化の予防や早期対応を図る【目的②】

目指すべき運営の形

◆ 誰でも自由に気軽に出入りができる居場所

◆ 目的や成果が求められない余暇活動の場や、利用者が共感や自己表現を図ることができる居場所

◆ スタッフとの信頼関係があり、スタッフに会いに来れる居場所

検討要素 ○促進要素、●阻害要素

- 匿名性が高い
- オープンチャットで安全性がある
- リアルタイムコミュニケーションがとれる
- どこからでも参加ができる
- 事前登録が必要
- 開室時間に合わせる必要がある
- デジタルツール等が必要
- 保護者の安全性に対する懸念が大きい

- 匿名性が高い
- 聞くだけの参加も可能
- 利用者企画のプログラムの実施が可能
- 非言語コミュニケーションは困難
- 表現はテキストチャットのみ
- オープンチャットのため利用者間でのコミュニケーションがとりにくい

- スタッフは固定
- スタッフはボイスチャットで話しかけられる
- 事前登録時にスタッフが個別把握を行う
- アバターコミュニケーションの制約
- 講義型プログラムになりがち
- オープンチャットのため利用者の個別対応が困難

「自由」「気軽」と「安全性」の両立が課題

利用時間帯 安全性

事業の目的達成に資するユースワークプログラムの実施

プログラム内容

オンライン空間でのスタッフとの信頼関係醸成に時間がかかることが課題

利用者との関係性

埼玉県バーチャルユースセンター・今後の方向性(案)について

利用実績分析

* 自発的利用者数・・・デモ参加者、スタッフがリアルな居場所で声掛けをした参加者を除いた人数

月	利用者延べ人数	内、自発的利用者延べ人数*	自発的利用者実人数
令和6年10月	99名	3名	
11月	102名	4名	
12月	71名	29名	「つながる埼玉フェスタ」で延べ15名参加
令和7年1月	41名	6名	
2月	30名	8名	
3月	19名	9名	8名(内、未登録者7名)
4月	9名	9名	5名(内、未登録者2名)
5月	45名	20名	13名(内、未登録者9名)
6月	33名	6名	5名(内、未登録者1名)
7月	48名	9名	9名(内、未登録者7名)
合計	497名	103名	

埼玉県バーチャルユースセンター・今後の方向性(案)について

前回総括

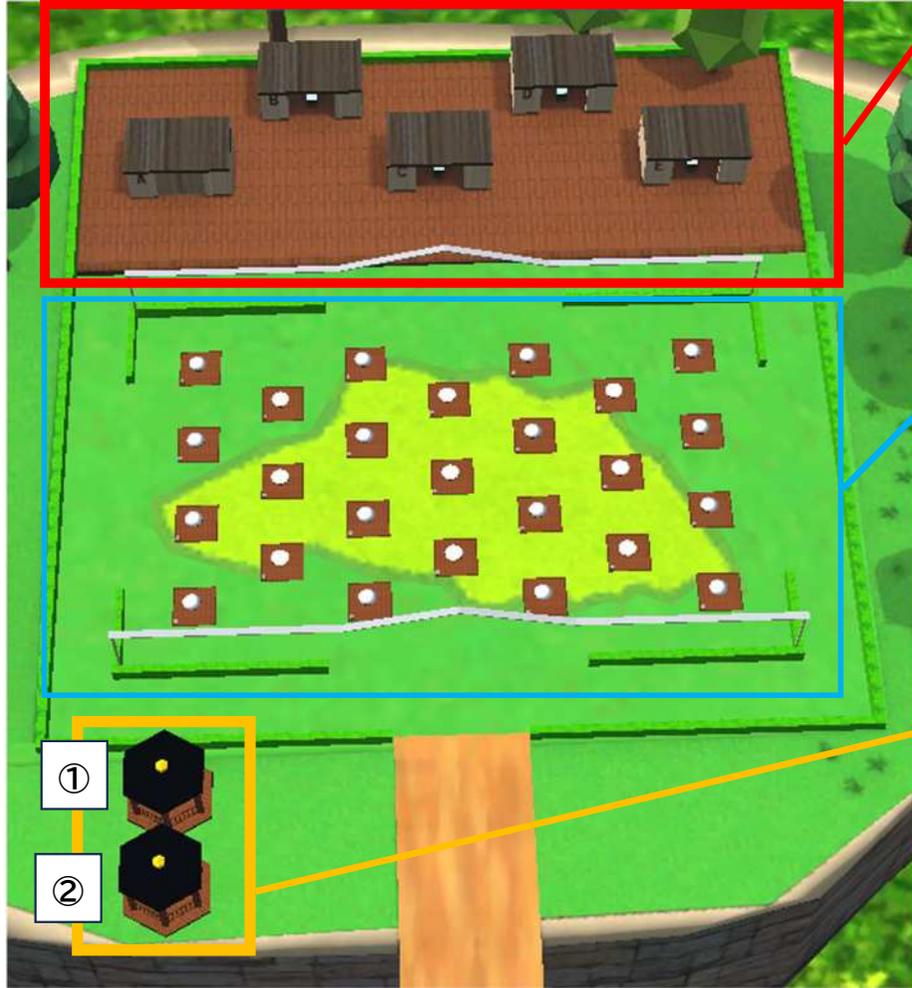
前回報告の方向性	取組内容	課題	今後の方向性
時間帯等の利便性向上	週3日開室、内2日を固定 (火曜午前、木曜午後、土日いずれか) 土日夜間のプログラムを実施	不定の開室時間は事前に時間を確認することが必要 分析にあたり、母数(利用者数)を増やす必要がある	週3日の開室時間を固定化し、まずは利用者の利便性向上を図り、利用者人数を増やす
安全性の更なる担保と誰でも気軽な利用	本人確認の簡素化(義務教育年齢のみ電話確認) 登録不要のオープンデーを不定期開催	事前登録及び本人確認のハードルがある 継続的な未登録オープンデー参加者が複数あり	事前登録及び本人確認により簡素化を図る オープンデーを週1~2日開催
多様なプログラムの設定	配信型、交流型プログラムのほか、継続性のあるサークル活動型プログラムを実施	リアルタイムコミュニケーションとなるため、「その場」にいる必要がある	コミュニケーションツール Teamsのチャンネルを試験的に運用する(利用者限定)
ニーズある層へのアプローチ強化	Youtube広告の実施 SNS周知、インスタ開設	匿名性を肯定的に捉える層がある一方、懸念する層もある(特に保護者) 現時点では広報効果が実感できるものはない	リアルのアプローチ(デモ等)とオンラインのアプローチ(SNS等)を併用していく

埼玉県バーチャルユースセンター・今後の方向性(案)について

運用方針案

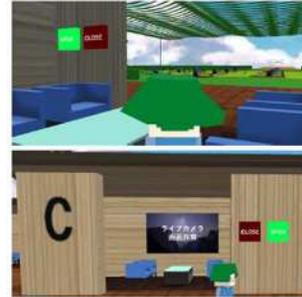
開室時間	毎週 火曜日 16:00~19:00(小学生向け) 木曜日 16:00~19:00 日曜日 19:00~21:00
利用方法	事前申込・事前登録不要
開室場所	バーチャル埼玉 相談エリア(文字・音声チャットが可能となる空間) ◆ オープンテラス … カフェ席が並んだ広いエリア。席に集まったアバターでグループチャットが可能 ◆ 鍵付き相談ブース … ブース型。ブース内にいるアバターでグループチャットが可能(ブースの扉の開閉可) ◆ グループワークルーム … 閉鎖された会議室風の空間。空間内にいるアバターでグループチャットが可能 ◆ バーチャル埼玉相談室 … バーチャル埼玉のエリアと完全に分かれた個室空間
運営方法	① オープンテラスでスタッフや利用者間で相談や会話を行う自由な空間を提供 会話をしに来る、様子を見るだけ、リアクションして帰るだけ……何を目的に来ても可 誰かに聞いてほしい自分の好きなことや日頃の愚痴、誰かと話をしたい時に来れる居場所 ② 開室時間中、テーマを決めたプログラム実施。実施場所は、プログラム内容に応じて相談エリアを幅広く活用 共通のテーマを基に、利用者間のコミュニケーションを促進していく ③ バーチャル埼玉相談室等を活用した個別相談への対応 第三者に聞かれたくないもの、個人情報に関わる相談等については、プライバシーを確保できる空間を案内し、 随時対応する
広報周知	Instagramの運用(週1回程度の更新)、動画作成による広報、デモの実施、受付
安全対策	スタッフが常駐し、チャットでの会話等の確認を行う

相談エリア概要



相談エリア入口

鍵付き相談ブース



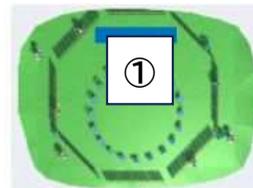
- ブース形式の空間
- ブース内にいるアバターによるグループチャットが可能
- 入り口の扉の開閉が可能であり、閉じることで秘匿性が高まる

オープンテラス

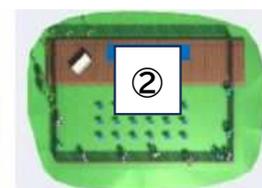


- カフェ席が並んだ広いエリア
- 席に集まったアバターでグループチャットが可能
- オープンテラスに入るための入り口は管理者権限による入場制御が可能

グループワークルーム



車座形式



教室形式

- 閉鎖された会議室風の空間
- 空間内にいるアバターでグループチャットが可能
- 小屋からグループワークルームへの転移は管理者権限による制御が可能

検証結果

開室時間	毎週 火曜日 16:00~19:00(小学生向け) 木曜日 16:00~19:00 日曜日 19:00~21:00
------	---

検証経緯

○令和6年10月～
平日週2日×4時間、不定期

○11月～
平日週2日×4時間、火曜10時～14時・金曜13時～17時

○令和7年1月～
週4日×2時間、不定期

○5月～
週3日、平日週2日×3時間、休日週1日2時間、不定期

○7月～
週3日、平日週2日×3時間、休日週1日2時間、火曜9:30～12:30、木曜15:00～18:00、日曜18:00～20:00

検証結果

- 特に有用な時間は確認できなかった。
- 開室時間を長くしても、長時間の開室は(スタッフも含め)心身の負担が大きい。
- アンケート等では、休日夜間での利用を希望する回答が多くあったが、実際の利用に結びついていない。

方向性(案)

- 平日2日、休日1日を継続することとしたい。
- 不登校だけではなく、様々な事情を抱えた層に幅広く利用していただくため、夕方以降の時間帯とする。
- 時間帯を揃えることで、利用者の利便性向上を図る。

埼玉県バーチャルユースセンター・今後の方向性(案)について

検証結果

利用方法	事前申込・事前登録不要
安全対策	スタッフが常駐し、チャットでの会話等の確認を行う

検証経緯

○令和6年10月～
リアルの居場所事業利用者や教育支援センター利用者を中心に声掛け事前登録及び電話による本人確認支援機関等の代理申請可
個人間チャットの禁止

○令和7年1月～
利用募集を一般公開(募集の周知先は支援機関等利用者中心)

○3月～
登録不要で利用できるオープンデーを不定期開催

○7月～
登録内容の簡素化(氏名等を不要)
SMS等による本人確認

検証結果

- 登録不要のオープンデーを実施したが、大きな問題は生じておらず、安全の確保は可能。
- スタッフが常駐することで、基本的に対応できる。(問題行動は強制退室させる)
- 登録不要にすることで利用者の背景が見えなくなるため深い関係を構築しにくくなるとともに、県外利用者を防ぐことはできない。
- 登録はするが、実際の利用に結びついていないケースが多い。
- 個人情報登録することについて抵抗感を持つ人もいる。

方向性(案)

- 居場所事業として、まずは利用しやすいことが重要であることから、事前申込・事前登録不要としたい。
- 個人間のチャットを禁止することにより、オープンチャットとなり透明性が確保される。
- 不適切な発言等をするアバターについては、事前注意の上、それでも改善されない場合は強制退室を行う。

埼玉県バーチャルユースセンター・今後の方向性(案)について

検証結果

開室時間	毎週 火曜日 16:00~19:00(小学生向け) 木曜日 16:00~19:00 日曜日 19:00~21:00
開室場所	バーチャル埼玉 相談エリア(文字・音声チャットが可能となる空間) ◆ オープンテラス … カフェ席が並んだ広いエリア。席に集まったアバターでグループチャットが可 ◆ 鍵付き相談ブース … ブース型。ブース内にいるアバターでグループチャットが可(ブースの扉の開閉可) ◆ グループワークルーム … 閉鎖された会議室風の空間。空間内にいるアバターでグループチャットが可 ◆ バーチャル埼玉相談室 … バーチャル埼玉のエリアと完全に分かれた個室空間
運営方法	① オープンテラスでスタッフや利用者間で相談や会話を行う自由な空間を提供 会話をしに来る、様子を見るだけ、リアクションして帰るだけ……何を目的に来ても可 誰かに聞いてほしい自分の好きなことや日頃の愚痴、誰かと話をしたい時に来れる居場所 ② 開室時間中、テーマを決めたプログラム実施。実施場所は、プログラム内容に応じて相談エリアを幅広く活用。 共通のテーマを基に、利用者間のコミュニケーションを促進していく ③ バーチャル埼玉相談室等を活用した個別相談への対応 第三者に聞かれたくないもの、個人情報に関わる相談等については、プライバシーを確保できる空間を案内し、 随時対応する

検証経緯

○令和6年10月～
グループワークルームでのプログラムの実施
プログラム開始前前後30分はスタッフが入り口前に待機
相談は事前予約制

○令和7年8月～
プログラムは引き続きグループワークルームを活用する
プログラムのない時間帯は新たにオープンテラスを活用
相談は事前予約制

検証結果

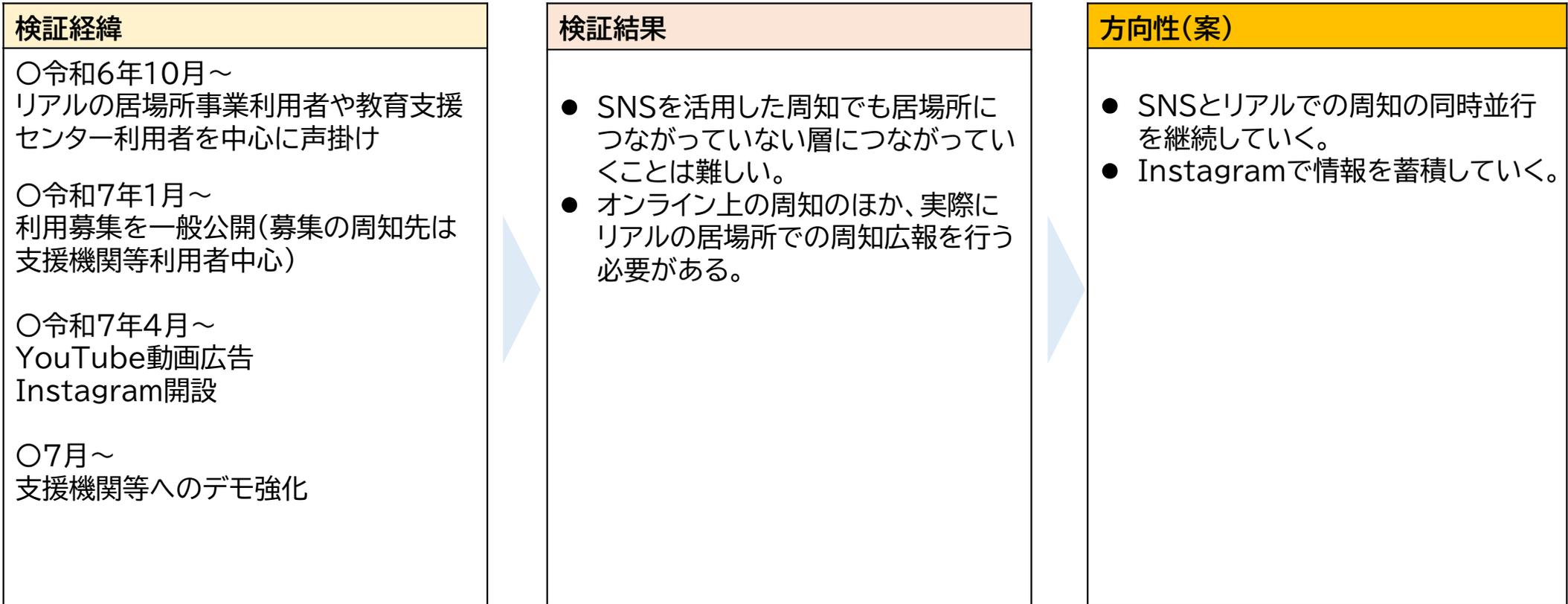
- プログラムは参加人数が多くなるとチャットやアバターのリアクションの確認が困難。
- テキストチャットを入力するスピードにも違いがあり、プログラムは進行管理が難しい。
- プログラムを行うグループワークルームはオープンチャットであるため、利用者間でのコミュニケーションが図りにくい。
- 小学生(特に低学年程度)はチャットを中心としたプログラムに参加することが難しい。

方向性(案)

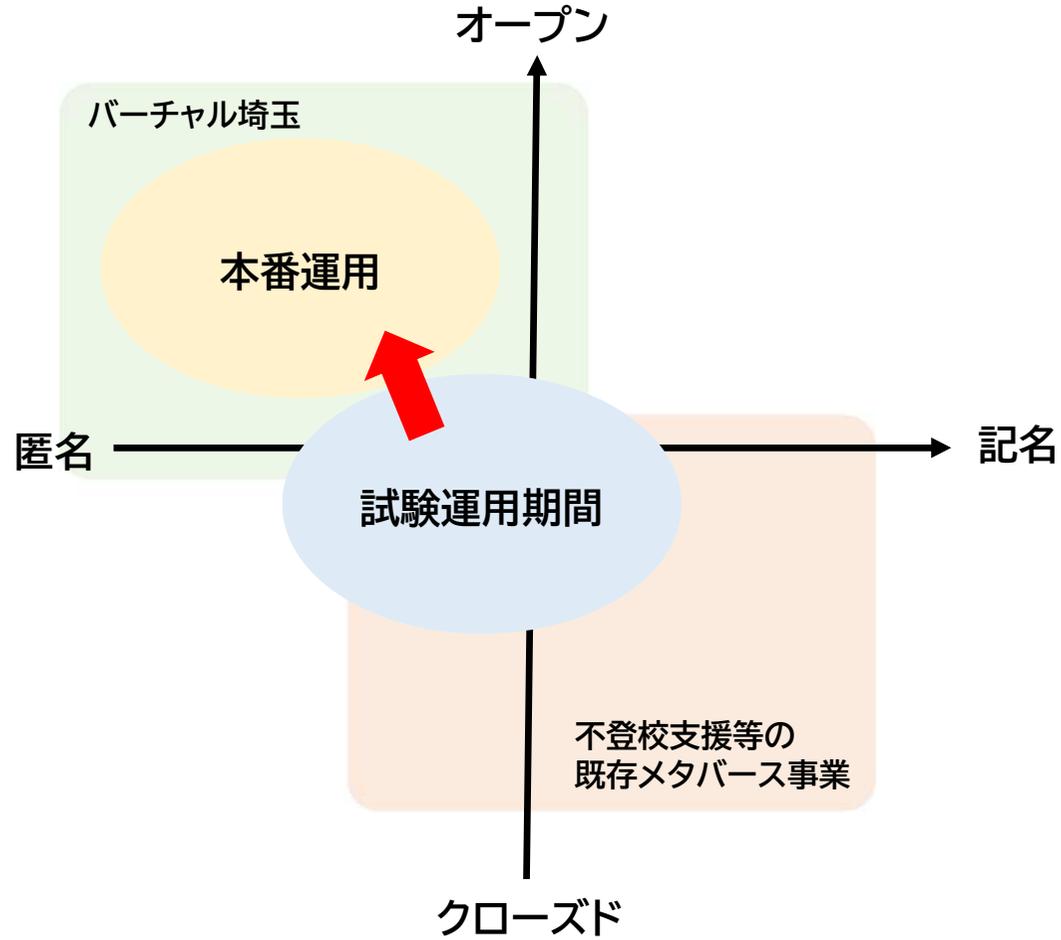
- プログラム実施上の課題を克服するため、グループチャットが可能なオープンテラス等を活用し、カフェ席での少人数空間を演出する。
- プログラムは、プログラム内容に応じて相談エリアを幅広く活用。
- 相談はプライバシーを確保した空間が必要であるため、事前予約制のままとする。
- 火曜日を小学生向けの日と明示することで、利用者の参加しやすさを向上させる。

検証結果

広報周知	Instagramの運用(週1回程度の更新) 動画作成による広報 デモの実施、受付
------	---



今後の位置づけ



埼玉県バーチャルユースセンター運営検討会議 ・ 結果概要(令和7年8月時点)

回	区分	委員	事務局	対応状況	
②	質問	交流部屋は、対象年齢で部屋を分ける、年齢を分けない、どちらを主として運営するのか。	年齢を分けた方が的確なプログラムを提供できる一方、異年齢が集まることの良さもある。 試行の中で検討する。	-	-
②	質問	Discordを活用するにあたって留意する点として何を考えているのか。 不適切な発言がなされる可能性がある。	(受託事業者) 運用ルールをこども達に働きかける。 ワード登録を行い、不適切な発言があった場合、運営側にアラート通知が届く設定をする。そして、発言をしたこどもに対してケアやサポートをしていく。 なお、Discordはツールの一つの家であり、実際に活用するかどうかは今後、検討を行う。	-	-
②	質問	Discordを活用する場合、スタッフがいない時間においてもこども達だけのやりとりが発生するものか。	(受託事業者) こども同士のやりとりが発生することも想定している。 最初は事前登録したこども達だけの運用となるため、運営側がある程度各個人の把握はできる。 テキストチャットの履歴は残るため、運営が定期的に確認する運用が考えられる。	-	-
②	質問	Discordでの相談時間を設けるのか。	(受託事業者) 運営と直接会話が出来る時間帯はあらかじめ示す必要があるが、今後、検討を行う。	-	-
②	意見	バーチャルユースセンターとDiscordの棲み分けを整理することが課題。 ヨーロッパではDiscordがオンラインユースワークやデジタルユースワークの主戦場となっている。Discordだけで完結できる部分があるが、一方で、アバターを介したバーチャルユースセンターならではの良さもあると考える。それぞれの利点を踏まえ、どう活用していくのか、どうあるべきかを意識して議論していけると良い。	(受託事業者) バーチャルユースセンターの補完的な役割としてDiscordを活用することを考えている。 今後、検討を行う。	利用者機能の管理が行えるTeamsを活用した枠組みを検討中。	済
②	質問	夜の時間帯に対するニーズがあると思われるが、その対応はどのように考えているのか。	(受託事業者) 夜の時間にニーズがあるだろうということは理解しているが、昼間の時間帯で生活リズムを整えられた方がよいという考えもある。また、あまりに遅い時間では生活リズムが崩れる可能性もある。 試行の中で検討する。	-	-
②	質問	協力小中学校に対する広報はどのように考えているのか。	協力小中学校に対して、一斉にチラシ等を配布することを想定している。	-	-
②	質問	1月になると、すべての小学校から大学に一般公開するのか。	試行の中で検討する。	-	-

回	区分	委員	事務局	対応状況	
②	意見	連絡先の登録について、通常の小中学生はメールアドレス等はあまり持っていないと思われる。 また、未成年は保護者の連絡先を登録することとなると、居場所感を下げる要因となり、必要なニーズ(こども)に届かないリスクになる。	-	義務教育年齢の者については、保護者の同意を求めるとし、連絡先は保護者のものとする。 ただし、支援機関等利用者は支援機関等による代理登録を認めることとする。	済
②	意見	保護者の連絡先を求めることは義務教育かそうではないかで分けてもよいのではないか。中学生までは保護者の連絡先を求め、高校生からは任意とする運用も考えられる。 また、保護者の同意が得にくい場合においては、例えば学校の先生や、施設の施設長、ケースワーカーといった親以外の選択肢を認める等、柔軟な対応が必要と思われる。	-	義務教育年齢の者については、保護者の同意を求めるとし、連絡先は保護者のものとする。 ただし、支援機関等利用者は支援機関等による代理登録を認めることとする。	済
②	意見	本人や家族と連絡をとるために、登録時にメールアドレスや電話番号を求めることが必要であることは理解できる。	-	登録時にメールアドレス及び電話番号を求めることとする。	済
②	意見	メインターゲットをどこに設けるか議論が必要。 ユニバーサルかターゲットか。試行当初はターゲットを絞って始めることは了解しているところであるが、将来的にどの層をメインターゲットに据えるかによって運営のルールも変わってくる。 ただ、真に居場所が必要であるこども達に利用したいと思ってもらえるよう、形式上はユニバーサルとして敷居を下げ、実際のメインターゲットは別に据えるという考え方もある。 試行期間中はターゲットを絞り、支援を要することもだけに絞ることも考えられる。	-	委員意見を踏まえ、試行の中でニーズを検証し、利用者層の拡大にあたっては慎重に検討を行う。 ⇒(第4回追記) リアルに居場所のあるこども・若者は定着をしない傾向があるため、リアルに居場所がない(感じられない)こども・若者へのアプローチを強化する。	済
②	意見	試行期間の間は、ずっと支援を必要としているこども達だけを対象とするということも考えられる。	-	委員意見を踏まえ、試行の中で検討を行う。 ⇒(第4回追記) リアルに居場所のあるこども・若者は定着をしない傾向があるため、リアルに居場所がない(感じられない)こども・若者へのアプローチを強化する。	済
②	意見	ユニバーサルの部屋とターゲットを絞った部屋、両方を用意し、行き来できるようにすることも考えられる。	-	講義的なプログラムの回のほか、こども・若者が主体となって活動するような回、特定の目的を持たない余暇の回など、様々なプログラムを設け、こども・若者のニーズに幅広く対応する。	済
②	質問	プライベートテキストチャットで別のサイトのURLや連絡先の交換等が行われる可能性があるが、対応する方法はあるか。	制限する機能はないため、運用ルールの中を定め、対応・指導していく必要がある。	11月14日にプライベートテキストチャットを制限する機能が実装された。バーチャルユースセンターにおいては当面の間、プライベートテキストチャット機能は原則禁止の設定とする。	済
②	意見	不適切な発言等をしてキック(強制退室)されたこどもに対してケアの方法を考えておくことが必要。	登録時に連絡先を確認し、ケアに努める。	ケアを行う旨、マニュアルに追記。	済

回	区分	委員	事務局	対応状況	
②	意見	利用者間のプライベートテキストチャットは早い段階で認められていくものという印象。	試行の中で検討する。	空間内の安全性が求められる一方、プライベートチャットのログを確認すること等できないため、現仕様の中においては制限を継続する。	済
②	意見	入室にあたって、なりすましを防ぐために合言葉等によりきちんと本人確認をしてから入室させるということも考えられるが、一方で、利用のしやすさを優先させるという考え方もある。どの方法が適切かについては試行の中で検討していただきたい。	試行の中で検討する。	合言葉での入室確認は事務的に支障が生じるため、ニックネームによる確認とする。	済
②	意見	今後、パーチャルユースセンターの活動が教育課程上の学校外の活動としてカウントされることも考えられる。	-	試行運用の中で一定の方向性が固まった本格実施となり、安定的な運営が継続された後、協力市町村、教育支援センターと協議する。	継続
③	質問	お試しで参加した者も登録しているのか。	お試し参加の者は登録していない。	-	-
③	質問	学習プログラムはどこで行う予定か。	(受託事業者) オープンテラスの使用を考えている。例えば鍵付き相談ブースのスクリーンを使用することも検討している。そこで学生ボランティア等がテキストチャット中心で教えるイメージで考えている。	-	-
③	意見	同じ場を共有していることの強みを活かすためには、テキストチャットよりもボイスチャットの方が大事ではないか。	試行の中で検討する。	委員の意見を踏まえ、試行の中で検討を行う。 ⇒(第4回追記) ボイスチャットを希望しない利用者も一定数いるため、プログラム内容に併せて使い分けをすることとする。	済
③	質問	身分証明の確認を緩和するということだが、具体的にどのような方法か。	支援機関に在籍確認を行うことで本人の身元確認ができたと整理したい。	-	-
③	意見	どこにも在籍していない、中学校にも高校にも在籍していないような人に対する登録方法を検討していただきたい。	-	試行期間当初においては、登録時にオリエンテーションを実施し、本人確認を行う。	済
③	意見	入室にあたっては、システムで本人確認できた方が心理的安全性が高い。	パーチャル埼玉の機能としては実装されていないが、担当課所に要望として伝えている。	担当課所に対し要望を伝えていく。	済
③	質問	利用拡大の状況は。	教育支援センターは調整中。 そのほか、市町村に対して協力の通知を発出しており、協力の相談があれば適宜対応していく。	-	-
③	質問	実際に運営している委託事業者の意見として伺いたいですが、この事業は、何に向いていそうか。 パーチャル埼玉をどう使うかということから始まっており、何かニーズがあって始まっているものではないという難しさを感じている。 その中で、匿名のライン相談やリアルな居場所づくり等も進んでいる中、どんな強みがあると感じているのか。	(受託事業者) 行政が運営しているという信頼性があり、子どもや若者の安全なパーチャルな居場所が提供できるという点に可能性があると感じている。	-	-

回	区分	委員	事務局	対応状況	
③	意見	子どもや若者の安全なバーチャルな居場所が提供できるという点に強みがあるのであれば、そういったニーズに尖らせた拡充の仕方等を進めていくべきではないか。	-	委員の意見を踏まえ、試行の中で検討を行う。 ⇒(第4回追記) リアルに居場所のあることも・若者は定着をしない傾向があるため、リアルに居場所がない(感じられない)子ども・若者へのアプローチを強化する。	済
③	質問	登録している人はどのような人か。	(委託事業者) 現在の傾向としては面白そうな場所として興味を持った人が登録している割合が大きい。 ただ、中には学校に行かないという選択をしている人や、その時のコンディションでリアルの現場に來れないような人もいる。 (県) 支援が行き届かない層への掘り起こしも検討していきたい。	-	-
③	意見	オンラインの交流からオフ会に繋げていくことのハードルは高い。 間にいるキーパーソンがとても重要になると思う。	試行の中で検討する。	利用者とスタッフ間での信頼関係醸成を、リアルも含めて考える。	済
③	意見	登録にあたっての性別確認については、男女及び男女に該当しないという3択でよいのではないか。 もしくは任意入力でもよいのではないか。	-	男女及び回答しないという3択で項目を設定する。	済
③	意見	性別の配慮については、当事者本人たちから意見を聞いた方がよいのではないか。	試行の中で検討する。	男女及び回答しないという3択で項目を設定する。	済
③	質問	アンケートは記名式か、無記名式か。 記名式の場合、書きやすさは下がる等の良し悪しはある。	利用者向けは無記名式、支援機関向けは記名式を検討している。	-	-
③	意見	何のプログラムに参加したか把握した方がよいのではないか。	-	質問項目の適宜行う見直しの中で検討を行う。 ⇒(第4回追記) 設問数厳選のため一旦見送ることとする。	済
③	意見	フェイスシートにあたる部分は質問した方がよいのではないか。	-	フェイスシートにあたる部分の質問項目を追加する。	済
③	意見	質問をする目的に併せて質問項目を設定すべき。	-	質問項目の適宜行う見直しの中で検討を行う。	済
③	質問	アンケートの配布方法はどのように考えているのか。	フォームに入力してもらう方法と小学校低学年向けに聞き取る方法を検討している。	-	-
③	意見	アンケートは回答する側の負担や時間的な制約がある。例えば小学生には小学生向けのより簡易なアンケートがあってもよいのではないか。	検討を行う。	小学生向けのアンケートの作成。	済
④	質問	バーチャル埼玉とZOOMを両方使用するメリットは何か。	バーチャル埼玉の機能的に制約されている部分を必要に応じて外部ツールの活用により補完するというもの。	-	-
④	質問	テキストチャットとボイスチャット、どちらを使う利用者が多いか。	圧倒的にテキストチャットを使っている方が多い。	-	-

回	区分	委員	事務局	対応状況	
④	意見	学校で配布されているタブレット等にリンクや情報が含まれるとよい。	検討を行う。	試行運用の中で一定の方向性が固まった本格実施となり、安定的な運営が継続された後、協力市町村、教育支援センターと協議する。	継続
④	意見	学校内の保健室等で休んでいるといった、学校には行っていないけれども違う教室でゆっくりしていることも達にも一定のニーズはあるのではないかな。	検討を行う。	SSW、特別支援教育コーディネーター等学校内の支援業務従事者に対し事業紹介の通知を发出する。	済
④	意見	アバターの種類が少ないのではないかな。また、カスタマイズできるようにできないのかな。	担当課所に要望として伝える。	担当課所に対し要望を伝えていく。	済
④	意見	バーチャル埼玉を特に目的なく回遊している者に対して、空間内にある掲示板等で情報発信したらどうか。	(委託事業者) バーチャル埼玉内に特に目的なく回遊している者はほとんどいない。 また、プログラム以外の時間帯に訪れる者もほとんどいない。	-	済
④	質問	11月活動実績の中で22日だけ0人だった理由は何かな。	(委託事業者) リアルのイベントに人がとられてしまった。また、「表現哲学対話ミックス」というプログラム名もわかりにくかったと思われる。	-	-
④	意見	プログラム名が少し硬いのではないかな。	(委託事業者) プログラム名は工夫したい。	プログラム名は適宜見直しを行っていく。	済
④	意見	子ども達から発信する何か、その子ども達が真ん中に立って、実施できるようなプログラムが今後展開されていくとよい。	-	子ども・若者の意見発信となるプログラムを設定する。	済
④	意見	学校については、SCやSSWも良いが、特別支援教育コーディネーターや教育相談コーディネーターにこういった活動を、学校に行きづらい、教室に入りづらい人にどうかということをお願いできれば、個別に対応してくれる。	検討を行う。	各市町村教育委員会等宛に通知を发出	済
④	意見	プログラム外で自由に来て何か話している人はいるのかな。	(委託事業者) ほとんどいない。 そういったところが理想ではあるが、まだ利用者もプログラムがなければ何をしたらいいのか少し戸惑うといった現状もある。	8月はオープンテラスを活用したチャット利用者があった。	済
④	意見	公共施設とは違うため、現時点では参加者数で事業の善し悪しを評価することでなくても良いのではないかな。色々試行する中で、将来の方向性を見据えていけるとよいのではないかな。	もう少し先を見据えて取組を進めたい。	-	-
④	意見	バーチャルユースセンターが大人気コンテンツを設け、皆がここに行きたいと思うようなことを想定するよりは、むしろここにこそニーズがあるような層を探り、尖らせていく方がよいのではないかな。	試行を進め、どこにニーズがあるのか考えていきたい。	リアルに居場所のあることも・若者は定着をしない傾向があるため、リアルに居場所がない(感じられない)子ども・若者へのアプローチを強化する。	済
④	意見	オンラインユースワークを実施していくにあたり、この空間を使うことや単純な人数の増加をゴールとするのではなく、どこかのタイミングで他の方向性を考えることも必要ではないかな。	-	一定の可能性が感じられることから、メタバースを活用したユースワークを継続していく。	済

回	区分	委員	事務局	対応状況	
④	意見	リアルの居場所との比較のほか、他のオンラインの居場所との比較も考えていく必要がある。バーチャルユースセンターの強みが行政が運営している安全性が強みであるならば、その点も踏まえて尖らせていくことも重要。	-	安全性を追求することは利用のハードルの高さにつながる。一定の安全性を確保した上で、利用のしやすい運営形態を目指す。	済
④	質問	バーチャル埼玉で3D酔いをするが、対策はあるのか。	(委託事業者) 根本的な対処法はないため、長時間の利用とならないよう適宜休憩をはさむようにしている。	-	-
④	意見	他自治体の不登校児向けメタバース事業においては、スタッフ1名は常駐していることを安心安全のポイントとしている。	(委託事業者) バーチャルユースセンターにおいても開室時間は常にスタッフがいる。	-	済
④	意見	周知について、今後の本格運用に向けて広く周知していくという考えがある一方、一般利用者の方が来ることによって、教室に行きづらいうようなことも利用しにくくなる恐れがあるのではないか。	段階を迫って周知を広げていくイメージである。ターゲットを絞る方向性も良いのではないかという御意見もあったため、広げられるところから広げていきたい。	-	済
④	意見	放課後児童クラブ等において、夏の時期、熱中症警戒アラートが発令されると外遊びができなくなり、持て余すこともあったという話も聞いた。そういったタイミングで合同イベントのようなものが企画できるとよいのではないか。	検討を行う。	夏休み期間中は日中に開室時間を設け、暑さで外出できない層へのアプローチを強化	済
④	意見	登録にあたって電話による本人確認を実施することについてはメリット・デメリットがある。義務教育年齢の子どもについては、電話連絡によって保護者が安心する側面もある。今後、登録者数が多くあった時に向けてSNS通知のような工夫も考えられる。	検討を行う。	義務教育年齢の登録者については電話による本人確認を行い、それ以外の者についての確認はメールでのやりとり等で行うこととする。	済
⑤	質問	「観るラジオ」はボイスかテキストチャットのどちらで行っているのか。	(委託事業者) ゲストとパーソナリティはZOOMを活用して顔出しで対談を行い、聞きに来た子ども・若者はチャットで質問をするという形式。	-	-
⑤	意見	「バーチャル空間であれば誰でも気軽に入るのではないか」ということに対し、「誰でも気軽に参加できる環境整備を進める必要がある」ということは、イエスでもノーでもなく、とても行政らしい書き方になっている。どの程度フォーマルな報告書なのかにもよるが、出来た・出来なかった、うまくいった・いかなかった等を書いた方がよい	ここの表現としてはもう少し工夫した方がよかったかなとも思ったため、今後、検討させていただきたい。	-	-
⑤	質問	現状の登録者の中で、さいたまユースサポートネットの利用者の方が規模として一番多いと思うが、さいたまユースサポートネットの利用者は、お互いに面識があるのか、また、スタッフともリアルの交流があるということでしょうか。	(委託事業者) スタッフは面識がある。子ども・若者同士は、利用している事業ごとに分かれているため、全員が顔見知りではない。	-	-

回	区分	委員	事務局	対応状況	
⑤	意見	この空間が万能なものではないことは皆わかっており、そこを取り繕って書かない方がむしろ次に繋がる。もう少しフランクな会議として検討をしていった方が、実が出るのではないかと。そもそもニーズがあるかどうかも含めて検討する段階だと理解しており、その辺りは(ネガティブなことも含めて)おおらかに書いた方がよい。	-	-	-
⑤	質問	バーチャルユースセンターを利用する時間帯について、例えば21時から24時といった選択肢があったのか、そもそも質問自体設けていなかったのか。	21時以降のものについては選択肢に入れていなかった。	-	-
⑤	意見	家庭訪問型支援をされている団体との仕掛けづくりも必要ではないか。例えば、アスポートという学習支援を行っている団体が、要対協と連携してアウトリーチを実際行っており、そういった団体とのコラボみたいなところは重要になると考える。	(委託事業者) アスポートには、我々が作っているチラシを、青少年課を通じてお届けした。 団体同士として、アスポートの代表の方とも普段からやりとりなどもしている。今後、どのような連携ができるか検討したい。	アスポート関係団体に対し、連携等の依頼を行った。	
⑤	意見	その居場所での自分の役割を見つける時は、大体こちらから少し手伝って欲しいといった、小さな役作りみたいなのところから始めている。そういうちょっとした役割から主体的になっていくという過程を、居場所の中でなんとなく見かけている。	(委託事業者) 小学生の男の子が、自分の好きなものを皆に知って欲しい、みんなの前で話したいということで、自らテーマを企画し、プログラムを運営した。そうした役割を持ってもらう中で、広がりを持たせていきたい。	-	-
⑤	質問	企画はどのようにサポートをしたのか。	(委託事業者) 事前に本人と打ち合わせをした。小学生は保護者の方ともお話しすることになると思うが、丁寧な打合せを行っていきたくと考えている。	-	-
⑤	意見	何人か、例えば高校生が小学生の中に入って、何かやろうよみたいな、この間、言ってくれたことを実現しようよ、みたいな感じでやっていけたら、面白いのではないかと思う。それを、自分達がやって作り上げたと思えるような形で何か出来たら面白いのではないかと思いつつ、バーチャルでそれをやることについては難しいかとも思う。	-	-	-
⑤	質問	広報ツールとして考えているものは、テレビやSNS等ではなくYouTubeなのか。	どこにどんな広報をしていくことがベストなのかといったところは探りながらといったところが現状。ただ、やはりYouTubeという中で広く広報していくという方法も試してみて、どんな成果が出るのか出ないのか、といったところを確認していきたいと思っている。	-	-
⑤	意見	YouTubeの利用率はもちろん高いが、10代にしか見られないキッズモードがあるため、その辺の工夫は必要。	-	広告の設定に際し、対象年齢等の設定が可能。	

回	区分	委員	事務局	対応状況	
⑤	意見	SNSで、やはり最も使われているLINEや、10代の利用率が高いTikTokのようなツールを増やしていった方がよい。1分のショート動画を作ればどの媒体でも使いまわしができるため、汎用性高い動画を作るであつたり、また、同じような投稿を増やすといったことは必要。	短い時間の動画を作成しているところ。どのように拡散していくかは今後検討していく。	ショート動画を作成、配信等行った。	済
⑤	意見	学校側のタブレットの中に入れることはかなり有効だと思っているため、協力していただける学校があれば是非進めてみたらどうか。	検討を行う。	試行運用の中で一定の方向性が固まった本格実施となり、安定的な運営が継続された後、協力市町村、教育支援センターと協議する。	継続
⑤	意見	こどもたちも保護者も、YouTubeで検索し、不登校支援を埼玉県がやっていたりすると思うので、引っかかってくるものがあれば、そこからは入れるかと思う。	-	-	-
⑤	意見	展覧会のような、ギャラリーのようなことが機能として組み込むことはどうか。バーチャルのハードルの高さを考えた時には、1回入ってみることに誘導できる仕掛けがあつた方がいいと思う。何か皆が来ることによって色々なものが見れたり、出会えたりするような、何かそういう彼らからの発信が見れる場所のような使い方もあるかと思う。	検討を行う。	利用者の定着が図られた際には、ギャラリーのような取組を行っていく。	済
⑤	意見	文化祭や運動会といった学校行事になかなか参加できなかったことに対し、バーチャル運動会やバーチャル文化祭のような形で参加できると面白いと思った。	検討を行う。	既存の機能の中でそういった利用者のニーズに対応できるプログラムを実施していく。	済
⑤	意見	色々な方がゲストに来てというようなお話があつたと思うが、今、自分たちが運営している居場所に来ている若者の中に、元々学校に居場所がなくてオンラインゲームが自分の居場所になっていたが、そこからリアルに出たという若者がいる。そういった先輩の話みたいなもので、皆さんと繋がられると良いと思った。	検討を行う。	利用者の定着が図られた際には、関係団体の協力を得てプログラムの充実化を図る。	済
⑤	意見	不登校からリアルに繋がった話を聞くと、それぞれの先輩の言葉みたいなものがバーチャルに置いてあつて、自分で読めるようなものもあつてもよいのではないか。そういったものを、中学時代に読みたいと思つていたというような話がよく記事にある。そういった人達の声が並んであるみたいなものを、テーマに合わせて置いておくような工夫があるといいなと思つた。そういった取組とSNSをうまく連動させて広報できるとよい。	検討を行う。	メタバース空間において記録を残す等の機能を実装されていないことから、SNS等を活用して情報の発信に努める。	済
⑤	質問	例えば「電車に乗りたい」や「自転車に自分たちでこぎ動かしたい」ということは機能的に難しいのか。	難しい。	-	-
⑤	意見	何かうまくできる、うまくできたという成功体験のほか、居るだけでいいんだということにフォーカスを当てられたプログラムがあると面白いと思う。ノーやパスができるとか、ちらっと覗きだけでもいいとか、そういったグランドルールのもとで、居て楽しいなと思つてもらえるようにすることがいいと思う。	-	運営マニュアルにおいて共通ルールを作成し、プログラム開始時に説明を行っている。	済

回	区分	委員	事務局	対応状況
⑤	意見	まだ試行期間ということもあるため、何か特定のプログラムや人気のプログラムを中心に、そこから小さいところから広げていくという方法もあるのかと思う。まず初めは小さいところから徐々に広げていくことも1つかと思う。	-	-
⑤	意見	また、ベースの部分が周知も含めてまだ十分ではないのかなと感じているため、今はプログラムを充実させるというよりも、そういった広報や周知に力を入れることも1つかと思う。	-	積極的な広報に力をいれていく。
⑤	意見	あとは、そういったブログ等で、核となる利用者を養成し、その核となる人たちからプログラムの提案とかしてもらって広げていくということもいいのかと思う。	-	インスタを開設したので、既存のSNSを活用した取組を進めていく。
⑤	質問	TikTokは駄目なのか	埼玉県では運営してない。	-
⑤	意見	地方や中心部から離れた地域では保護者の相談先といった資源が限られているところもあるため、そういった社会資源の少ないところの保護者の相談先の1つに、このセンターがなれるといいのかなと思う。そうすることで、保護者や、或いは子どもの支援者の方でもどこかに相談する先が欲しいという方もいると思うため、そういったところから利用していただき、その次として、今度は支援しているこどもにこのセンターの利用を保護者や支援者から周知してもらい、つなげていくということも1つの方法かと思う。	教育支援センター等に声掛けをさせていただき、利用登録が少しずつ増えてきているところ。色々な広報手段を使って広げていきたいと考えている。	不登校の保護者の方を対象としたプログラムを実施した。
⑤	質問	保護者相談の先としてここの登録を周知するという点についてはどうか。	検討を行う。	-
⑤	質問	保護者の相談に乗るということの打ち出しはどうか。保護者相談があった際に、その時にこういうものもあるからどうかというような話であればできると思うが、保護者相談の窓口として広報できるか。	検討を行う。	-
⑤	質問	保護者が登録し、保護者のグループをバーチャルでやるということもあり得るのか。	保護者への訴えかけが、相談といった形がよいのかどうかはまだ見えていないが、今後、検討したい。	-
⑥	質問	小学校や中学校、義務教育の子の学校に報告等はしているのか。	特にしていない。	-
⑥	意見	登録のハードルを下げようとするほど、学校や保護者との連携は難しくなっていくと思う。	-	-
⑥	質問	申請にあたって確認する質問数を減らすということであったが支援機関との繋がりの有無を聞くことについては今後どうするのか。	電話等で確認することがハードルになっている面もあるため、申込時に電話相談の希望の確認を行う。	-

回	区分	委員	事務局	対応状況	
⑥	質問	教育局で行うメタバース事業のプラットフォームは、バーチャルユースセンターを行っているプラットフォームと同じか。それとも全く別か。	全く別のものとなる。 バーチャルユースセンターはバーチャル埼玉というプラットフォームに乗っているが、教育局の事業はそもそもバーチャル埼玉に乗らない。	-	-
⑥	意見	利用者からすればバーチャルユースセンターと教育局で行うメタバース事業は同じ場所にあった方が使いやすいと思う。むしろバーチャルユースセンターが教育局と同じプラットフォームに移動しても良いのではないか。例えば不登校の子でも、勉強の時間とそれ以外の時間がオンラインであれば同じ空間の中でできるため、安全性が管理されれば、むしろプラスも多いのではと思う。	-	VYCは開いた環境を目指しているのに対し、教育メタバースは閉じた環境を目指しており、プラットフォームの構成上両立できない。	-
⑥	質問	実際にキック(強制退室)をするような事例はどのような内容で、その後どのような対応ができたのか。	(委託事業者) キック機能は、これまでに1度程度、使用したことがある。「あああああ〜」のような意味のない長い文章でチャット機能を埋めてしまうような方がいた。アバターのため年齢はわからないが、複数回注意をした上で、キックをしたという例があるが、これまでに対応が困難だったという事例はない。	-	-
⑥	質問	委託事業者として登録をニックネームの確認のみとしていくことに不安はあるか。それともやってみたい、やってみようと思えるような雰囲気か。	(委託事業者) ユースセンター的な場所は、匿名性が高くした方が、保護者の同意がいない若者に対して事業の提供がしやすいのではないかと考えている。ニックネームのみであっても、もしバーチャル空間に来てくれたならば、信頼関係を構築できるように一生懸命やるという気持ちで対応したい。	-	-
⑥	質問	登録時に確認を行った携帯電話には電話はしないことになるのか。	携帯電話は非常用として確認する形となる。	-	-
⑥	質問	義務教育の小中学生の保護者にも、連絡はしないということではないか	そのとおり。 (委託事業者) 義務教育年齢の方には連絡の必要性について確認する項目等を設け、やりとりをしたい保護者がいたらお話をします。	-	-
⑥	質問	登録時に義務教育年齢の子どもが自分で入力するときに、電話番号やメールアドレスは自分の親のものを入力するのか。また、高校生年代以上は自分の連絡先を入力するのか。	義務教育年齢の子どもは、保護者の連絡先を基本的には入れていただくことになる。 高校生年代以上は御認識のとおり。	-	-
⑥	質問	高校生年代になると、保護者には子どもが登録したという情報は全く行かないことになるのか。	そのとおり。	-	-

回	区分	委員	事務局	対応状況
⑥	質問	ひきこもりや不登校のこどもは色々な悩みを抱えていると思う。信頼関係が構築されると、こどもが悩みを打ち明けたり、その場で解決できないようなことを話したりする可能性もあると思う。そういったときに、バーチャルユースセンターの中だけでは解決できないことについて、学校の関係者等に伝えた方がよいと思うが、関係機関との連携はどうなっていくのか。また、今までにそういった事例はあったか。	(委託事業者) これまで面談を要するような深刻度の深い相談はない。不登校状態のこどもや、リアルで学校の校門をくぐれないこども、適応指導教室にも行けなかったりするこどもの保護者の相談の中で、色々調べてバーチャルユースセンターを見つけたなどの話を登録時の電話がけの際にお聞きすることはある。専門外の分野等もあるため、様々な情報を保護者等からもらいながら、学校やスクールソーシャルワーカー、または行政の専門機関等につなぐことはできると考えている。 (事務局) バーチャルユースセンターには、個別に相談を聞く部屋を用意しているため、その中で詳しくお話を聞き、必要に応じて適切な支援機関の方につないでいくことを考えている。また、バーチャルユースセンターのホームページには、別途、利用に関わらず相談予約ができるフォームを用意しており、利用登録がない方に対してもフォローができるような体制は整えている。	-
⑥	意見	色々な人の声の中に、「リアルで知っている人でないと相談しづらい」という意見があれば「いや、全然知らないから相談しやすい」という意見があるなど、こども、あるいは保護者にとっても分かれるところだと思う。バーチャルだからこそその相談を望むという層が一定現れてくれば、意味はあるかと思う。	-	引き続き相談の積極的な利用を促す。
⑥	質問	プログラムとしては、「誰かと話したいな」や「相談したいな」となった時にいつでも行けるような場所ではないということではないのか。	週8時間を1つの目安にしており、24時間365日ではない。相談の受付は常に行っている。この8時間をどの時間帯にするのかを検討してきたところであり、希望が多い土日にも段々増やしてきたところ。ただ一定数、平日にもこの事業でしか声を出せない層があるのかなと感じてきているところなので、そういった時間帯にも用意している。間口はできるだけ広く、ただコアはぶれないようにして、困難を抱えるこどもたちの課題の解決につなげていきたいと思っている。	-
⑥	質問	週3~4日、プログラムを行っているところであるが、相談はそれ以外の時間帯に行うということか。それとも並行して行うのか。	相談内容が深刻でない場合は、日頃のやりとりの中で適切な場面を用意していくことになる。	-
⑥	意見	スマートフォンや端末をそもそも持っていない家庭や、親が優位になりやすい家庭の環境もある中で、こういった環境の子たちには届きづらい。	検証をしていく中で「必ずしもタブレットを持っていない」「1人1台端末はあるが学校に置きっ放しにしている」等もあることが徐々にわかってきたところ。どのような対応がとれるのかについては検討をしたい。	リアルの居場所事業等でのデモを実施していくことで、学校のような自宅以外での活用の場の創出に努める。
⑥	意見	のぞき見システムみたいなものがあるといいのではないかな。少しちら見やのぞき見みたいなものがあると安心感が出てくるのではないかなと思う。	お試しのバーチャルユースセンターとして、登録不要のオープンデーを作った。ただ、チラ見システムのようなものがあるとよいと思うため、改善要望を出してみたい。	担当課所に対し要望を伝えた。

回	区分	委員	事務局	対応状況	
⑥	意見	キックした事例もあったということだが、ウェルカムチャット(おかえりチャット)があるといいのではないかと。大人からすると問題行動にあたる子たちは、本人の意見形成の部分が少し強かったり、表現に少し問題があったりすることで、コミュニティから外されやすく、行き場をなくしているという傾向があるので、1つ前のソフトに戻れる何かがあると面白いと思う。	グループワークルームの前でスタッフがおり、何を話し掛けていただいてもいいという状態で待っていただいているため、安心感やウェルカム感はあると思う。	-	-
⑥	意見	Teamsについて、Office365を高校生のうちから触る若者たちは、そんなにいないのではないかと。ツールとして馴染みがある印象はない。	当初、外部ツールの活用について、若者がゲームで馴染みがあるDiscordと、Teamsの2つが候補に挙がっていた。一定程度、スタッフが管理するためには、Teamsがよいという結論になった。	-	-
⑥	意見	一瞬でも見られる10秒CMのようなものが、YouTubeやInstagramのストーリー等で見られると、若者も少し参加したいなという気持ちになるのではないかと。		ショート動画を作成、配信等行った。	済
⑥	意見	利用者のチャットを禁止している、リスクがあるからキックしなければならぬ等のお話があったと思うが、イベントの開催で初めて来る人が集まる場所では禁止にしたほうが良いと感じるが、複数回やっているようなイベントを実施するのであれば、この利用者のチャット禁止というのは緩和してもよいのではないかと。 利用者間で「またこの子と会えたね、あの人と会えたね」というのが一番のコンテンツになると思う。リスクももちろんあるが、利用者同士のチャットを完全に禁止するのではなく、また会いたいと思ってもらえることが原動力になって、面白かったイベントの2回目3回目にまた行ってみようかなというふうにつながるのではないかと。 メタバースはリアルなコミュニケーションの1歩手前にあるものであり、リアルなコミュニケーションが最上段のコミュニケーションだとしたらその練習にもなると感じている。その辺をケアしていく方法を模索していくと、友達になったり知り合いになったりということに繋がると思う。	今後、検討を行いたい。	オープンテラスを活用することでグループチャットによる交流(外からはグループで話していることが分かるが、話しの内容までは分からない)を行うこととする。	済
⑥	質問	利用者同士がチャットすることをスタッフが見ることができれば安心感が強いが、それは機能的に難しいのか。	機能的には難しい。利用者同士のチャット機能として、プライベートチャット機能もあるが、現在は使用制限をかけているところ。その制限の解除については、限定的に試してみるという方法はあるかもしれないと考えられるため、機能面を整理、確認をした上でチャレンジできればしてみたい。	オープンテラスを活用することでグループチャットによる交流を行うこととする。	済
⑥	質問	以前、県北地域にも広げていきたいという方向性があったと思うが、県北地域にも広がっているのか。	(委託事業者) 県北地域は相対的に少ない方となる。さいたま市と西部地域が多い印象。	-	-

回	区分	委員	事務局	対応状況	
⑥	質問	こども・若者企画プログラムについて、何か動き始めている例はあるのか。	イバショビルドというプログラムを企画し、話したいテーマに関して高校生以上の若者が企画をしていくようなプログラムを実施していきたいと考えている。	-	-
⑥	質問	登録時に在住市町村を書かなくすとのことであつたが、今後は県外からの参加もあり得ることになるのか。	今後、整理をさせていただく。	-	-
⑥	意見	<p>県外の参加を許可しないよりも、間口を広げた方が良いのではないかと。オンライン空間の中で、バーチャルユースセンターだけを安全にしようがない。</p> <p>オンライン空間自体に様々なリスクがある中、この空間だけ安全性を確実にすることが必要なケースはかなり限られるのではないかと。</p> <p>例えば、非常にニーズの高いこども(不登校等)に限定してサービスを提供するのであれば、(登録等により)安全性を高くする必要がある。</p> <p>一方で、利用者の人数を増やしていくのであれば、バーチャルユースセンターだけが安全な場所にするということはなかなか難しく、多少の性善説に立つ必要があると思う。</p> <p>ゆくゆくの理想的な姿になるかわからないが、1階と2階部分を分けて、IDがいらぬ1階と、より細かいIDカードが必要な2階部分みたいなものに分けられるような仕組みにするのがいいのではないかと。</p>	-	-	-